

「原子力委員会 市民参加懇談会」の活動について

2009年6月9日

内閣府 原子力政策担当室

目 次

1	はじめに	1
2	市民参加懇談会のこれまでの活動について	2
2. 1	企画会議（コアメンバー会議）の開催	2
2. 2	地域での懇談会の開催	6
3	地域での懇談会におけるアンケート等の整理について	24
3. 1	アンケートの整理	24
3. 2	会場からのご意見の整理	30
4	おわりに	31

（添付 1）市民参加懇談会の設置について（原子力委員会決定 平成 13 年 7 月 3 日）

（添付 2）市民参加懇談会の設置について（原子力委員会決定 平成 19 年 4 月 24 日（一部改訂））

（添付 3）アンケート集約結果

（添付 4）アンケートにおけるご意見の整理

（添付 5）会場からのご意見の整理

1 はじめに

平成7年12月の高速増殖原型炉「もんじゅ」の2次系ナトリウム漏えい事故を契機に高まった原子力政策に対する国民の不安感等に応え、国民的合意の形成に資するために、平成8年3月に原子力委員会は「原子力政策円卓会議」を設置し、国民各界各層から幅広く参加を求め、原子力に係る諸課題について意見交換し、今後の原子力政策に反映することとしました。平成8年度に開始した「原子力政策円卓会議」の活動は、平成11年度まで継続されました。

また、平成12年に策定された原子力長期計画では、その後発生した東海再処理施設アスファルト固化処理施設火災爆発事故、ウラン加工工場臨界事故等、一連の事故、不祥事によって国民の原子力に対する信頼が大きく損なわれるなど、原子力は国民・社会との関係において、様々な問題に直面しているとの危機感の下、「今後とも、国民の多様な意見を踏まえて原子力政策決定を行っていくために、政策案に対する国民の意見を広く求めるなど、政策決定過程に対して国民の参加を促すとともに、国は政策決定に関し、様々な機会を活用して説明責任を果たすことが重要である。また、これらのプロセスは社会情勢の変化に応じて柔軟に見直す必要がある。原子力政策円卓会議は、これまで、様々な人の意見を取りまとめて、政策提言を形成していく機能を果たしてきたが、広く国民の声を汲み上げて、原子力政策に反映していくという観点から、原子力政策円卓会議に続く新たな意見集約の場の在り方を検討する。」と指摘しました。

以上の経緯を踏まえ、原子力委員会は、「原子力政策の決定過程における市民参加の拡大を通じて、国民の理解をより一層促進するため」に、「原子力政策における市民参加の促進のための方策」及び「原子力政策に対する国民理解の促進のための方策」について、調査、審議する懇談会として、「市民参加懇談会」を平成13年7月3日に設置（添付1参照）し、また、平成19年4月24日には市民参加懇談会の活動内容等の一部見直し（添付2参照）を行いました。

市民参加懇談会の活動として、市民参加・国民との信頼関係の確立における対話・懇談の場の意義や地域での懇談会をどのように開催していくか、といったことをはじめ、原子力政策策定への市民参加の拡大を目指した、さまざまな方策について企画・検討するため、学識経験者、ジャーナリスト、オピニオンリーダー等、多様な立場の方々を構成員とした企画会議（コアメンバー会議）を計34回開催しました。

また、企画会議（コアメンバー会議）の企画・検討結果を踏まえ、地域での懇談会を、平成14年1月に新潟県刈羽村で第1回を開催以来、立地地域と電力消費地の双方において計18回開催しました。

本報告書は、市民参加懇談会のこれまでの活動実績および活動から得られたアンケートなどの情報を整理するものです。

2 市民参加懇談会のこれまでの活動について

2. 1 企画会議（コアメンバー会議）の開催

（1）開催実績

企画会議（コアメンバー会議）の開催実績を下表に示す。

【市民参加懇談会開催実績】

	開催日	主な審議事項
第1回	平成13年9月20日	<ul style="list-style-type: none">市民参加懇談会の今後の運営について（市民参加懇談会の果たすべき役割）市民参加懇談会の平成13年度の活動のポイント
第2回	平成13年10月29日	<ul style="list-style-type: none">原子力政策における「対話・懇談の場」の意義について地域における「対話・懇談の場」について原子力に関する情報の受信・発信のあり方及び学習のあり方について
第3回	平成14年2月12日	<ul style="list-style-type: none">「市民参加懇談会 in かりわ」の結果について市民参加懇談会の果たすべき役割について（再確認）今後の地方開催のあり方について
第4回	平成14年6月3日	<ul style="list-style-type: none">柏崎市での開催に向けての取組み状況について平成13年度の活動について平成14年度における取組みについて
第5回	平成14年9月9日	<ul style="list-style-type: none">「市民参加懇談会 in 東京」の開催結果について市民参加懇談会の今後の運営について
第6回	平成14年10月9日	<ul style="list-style-type: none">「市民参加懇談会」の開催について
第7回	平成15年1月21日	<ul style="list-style-type: none">「市民参加懇談会 in 東京」（第2回）の開催結果について「市民参加懇談会」の開催について
第8回	平成15年2月28日	<ul style="list-style-type: none">「市民参加懇談会」の開催についてこれまでの活動からの整理について
第9回	平成15年4月30日	<ul style="list-style-type: none">「市民参加懇談会 in 青森」の開催結果についてこれまでの活動のとりまとめについて次回の市民参加懇談会の開催について
第10回	平成15年5月21日	<ul style="list-style-type: none">これまでの活動のとりまとめについて次回の市民参加懇談会の開催について
第11回	平成15年6月9日	<ul style="list-style-type: none">「市民参加懇談会 in 敦賀」の開催計画について次々回の市民参加懇談会の開催について
第12回	平成15年7月25日	<ul style="list-style-type: none">「市民参加懇談会 in 敦賀」の開催結果について次回の市民参加懇談会の開催について
第13回	平成15年8月28日	<ul style="list-style-type: none">「市民参加懇談会 in さいたま」の開催計画について次々回の市民参加懇談会の開催について
第14回	平成15年11月20日	<ul style="list-style-type: none">「市民参加懇談会 in さいたま」の開催結果について次回の市民参加懇談会の開催について

	開催日	主な審議事項
第 15 回	平成 15 年 12 月 18 日	・ 次回の市民参加懇談会の開催について
第 16 回	平成 16 年 2 月 3 日	・ 『原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画』の策定準備に伴う市民参加懇談会の活動について ・ 市民参加懇談会の福島開催について
第 17 回	平成 16 年 3 月 16 日	・ 第 7 回市民参加懇談会～長計へのご意見を述べていただく場として～の開催計画（案）について
第 18 回	平成 16 年 4 月 6 日	・ 「第 7 回市民参加懇談会」の開催結果概要について ・ 「市民参加懇談会 in 福島（仮称）」の開催について
第 19 回	平成 16 年 9 月 1 日	・ 「市民参加懇談会 in 福島・ふたば」の開催結果について ・ 次回の市民参加懇談会の開催について
第 20 回	平成 17 年 2 月 23 日	・ 「第 9 回市民参加懇談会」の開催結果について ・ 次回の市民参加懇談会の開催について ・ いわゆる「サイレント・マジョリティ」をどう捉えたらよいかについて
第 21 回	平成 17 年 6 月 23 日	・ 次回の市民参加懇談会の開催について
第 22 回	平成 17 年 8 月 3 日	・ 「市民参加懇談会 in 福岡（仮称）」の開催について ・ 今後の開催について
第 23 回	平成 17 年 12 月 16 日	・ 「市民参加懇談会 in 福岡」及び「市民参加懇談会 i n 御前崎」の開催結果について ・ 次回の市民参加懇談会の開催地候補について
第 24 回	平成 18 年 7 月 3 日	・ 「市民参加懇談会 in 姫路」の開催結果について ・ 次回の市民参加懇談会の開催地候補について
第 25 回	平成 18 年 10 月 16 日	・ 「市民参加懇談会 in 札幌」の開催結果について ・ 次回の市民参加懇談会の開催地候補について
第 26 回	平成 19 年 3 月 30 日	・ 「市民参加懇談会 i n 松江」の開催結果について
第 27 回	平成 19 年 8 月 3 日	・ 座長選出について ・ 市民参加懇談会の今後の進め方について ・ 次回の市民から直接意見を伺う市民参加懇談会の開催について
第 28 回	平成 19 年 8 月 27 日	・ 次回地域市民参加懇談会の開催について ・ 次々回の地域市民参加懇談会の開催について
第 29 回	平成 19 年 10 月 19 日	・ 市民参加懇談会 i n 横浜の開催について ・ 今後の地域市民参加懇談会の開催について
第 30 回	平成 19 年 11 月 8 日	・ 市民参加懇談会 i n 横浜の開催結果について ・ 今後の地域市民参加懇談会の開催について
第 31 回	平成 20 年 3 月 12 日	・ 市民参加懇談会 i n 富山の開催結果について ・ 次回の地域市民参加懇談会の開催について
第 32 回	平成 20 年 12 月 8 日	・ 市民参加懇談会 i n 京都の開催結果について ・ 次回の地域市民参加懇談会の開催について
第 33 回	平成 21 年 1 月 14 日	・ 市民参加懇談会 i n 鹿児島開催について ・ 今後の市民参加懇談会について
第 34 回	平成 21 年 6 月 9 日	・ 関係省庁の原子力に係る広聴・広報及び教育活動について ・ 市民参加懇談会のこれまでの活動について

(2) 構成員

平成13年7月3日に市民参加懇談会設置後、第1回（平成13年9月20日開催）から第26回（平成19年3月30日開催）まで、以下の構成員にて企画・検討を行った。

【「市民参加懇談会」の構成員（第1回～第26回）】

○担当原子力委員

木元 教子 主 任

森嶋 昭夫 主任補佐（平成16年1月まで）

○専門委員

碧海 西葵 消費生活アドバイザー

浅田 浄江 WEN（ウイメンズ・エナジー・ネットワーク） 代表（平成18年9月から）

新井 光雄 エネルギージャーナリスト（平成15年8月から）

出光 一哉 九州大学大学院工学研究院エネルギー量子工学部門 教授（平成18年9月から）

井上 チイ子 生活情報評論家（NPO 法人 くらし、環境、エネルギーネット理事長）

岡本 浩一 東洋英和女学院大学人間科学部 教授（平成15年8月から）

小川 順子 WIN-J a p a n 会長

小沢 遼子 社会評論家

加藤 秀樹 構想日本代表

蟹瀬 誠一 ジャーナリスト、キャスター（平成15年8月から）

吉川 肇子 慶應義塾大学商学部助教授

高木 美也子 日本大学総合科学研究所教授（平成17年6月まで）

露木 茂 フジテレビ特別アドバイザー（平成15年11月まで）

東嶋 和子 ジャーナリスト（平成15年8月から）

中村 浩美 科学ジャーナリスト

松田 美夜子 生活環境評論家（廃棄物とリサイクル）

宮崎 緑 千葉商科大学政策情報学部助教授（平成15年8月まで）

屋山 太郎 政治評論家（平成14年12月まで）

吉岡 斉 九州大学大学院比較社会文化研究院教授

（肩書きは市民参加懇談会構成員当時のもの）

また、平成19年4月24日に市民参加懇談会の活動内容等の一部見直しを行った後、第27回（平成19年8月3日）から第34回（平成21年6月9日）まで、以下の構成員にて企画・検討を行った。

【「市民参加懇談会」の構成員（第27回～第34回）】

（座長）	中村 浩美	科学ジャーナリスト
	浅田 浄江	WEN（ウイメンズ・エナジー・ネットワーク） 代表
	新井 光雄	エネルギージャーナリスト
	出光 一哉	九州大学大学院工学研究院エネルギー量子工学部門 教授
	岡本 浩一	東洋英和女学院大学人間科学部 教授
	小川 順子	WIN-Japan 会長
	小沢 遼子	社会評論家
	東嶋 和子	ジャーナリスト
	吉岡 斉	九州大学大学院比較社会文化研究院 教授

（平成21年6月9日時点）

2. 2 地域での懇談会の開催

計18回の開催で、延べ約2,900人の参加者があり、その中の約150名の方々から直接御意見を伺い、原子力政策大綱や専門部会報告書の審議等の参考としてきた。

(1) 第1回（市民参加懇談会 in かりわ）

①開催日時及び場所

日時：平成14年1月15日（火）19:00～21:30

場所：老人福祉センター大集会室（刈羽村）

②テーマ

わたし達がエネルギーを大切に使うためには、どういう暮らし方がいいか。
エネルギー供給のあり方は、どうあったらよいか。
いま、原子力発電に求められるものは何か。

③プログラム

(1)第1部：刈羽村の方々との意見交換

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員（座長）、碧海委員、井上委員、小川委員、加藤委員、中村委員、吉岡委員

(パネリスト)

刈羽村有志の方々（土田智明、吉田大介 ほか4名）

(原子力委員)

遠藤委員長代理、竹内委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約100名（うち、第2部での意見発表者は10数名）

⑥概要

「わたし達がエネルギーを大切に使うためには、どういう暮らし方がいいか。」、「エネルギー供給のあり方は、どうあったらよいか。」、「いま、原子力発電に求められるものは何か。」をテーマに開催した。刈羽村の方を中心に約100名の参加があり、原子力やプルサーマルについて、また、国・事業者や住民の姿勢について、多様な意見が出されました。開催にあたっては、刈羽村の有志の方々と何度も意見交換を重ね、開催日やテーマ、発言者等について決めていきました。

(2) 第2回(市民参加懇談会 in 東京)

①開催日時及び場所

日時：平成14年7月24日(水) 13:30～16:30

場所：主婦会館プラザエフ 9階「スズラン」(東京都)

②テーマ

日本のエネルギーの需要と供給はどうあったらいいか。

原子力発電は必要か、あるいは不要か。

原子力政策決定過程と市民とのかかわり

③プログラム

(1)第1部：予めご意見をうかがうことをご依頼した方々のご発言及び意見交換

(2)第2部：会場参加者からご意見を聴く会

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員(座長)、井上委員、小川委員、小沢委員、加藤委員、
中村委員(司会・進行)、吉岡委員

(第1部のご意見発表者)

秋元 勇巳	日本経済団体連合会	資源・エネルギー対策委員会	委員長
今尾 和実	全国農業協同組合中央会		常務理事
鳥井 弘之	日本経済新聞社		論説委員
藤岡 武義	日本生活協同組合連合会		常務理事
水野 直人	日本青年会議所		常任理事
村上 忠行	日本労働組合総連合会		副事務局長
吉岡 初子	主婦連合会		事務局長

(原子力委員)

遠藤委員長代理、竹内委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約110名(うち、第2部での意見発表者は3名)

⑥概要

「日本のエネルギーの需要と供給はどうあったらいいか。」、「原子力発電は必要か、あるいは不要か。」、「原子力政策決定過程と市民とのかかわり」をテーマに開催しました。約110名の参加があり、各界のエネルギーについての意識、原子力に関する意見、原子力委員会や市民参加懇談会への期待など、多様な意見が出されました。

(3) 第3回(市民参加懇談会 in 東京)

①開催日時及び場所

日時：平成14年11月19日(火) 13:00～17:00

場所：東京ウィメンズプラザホール(東京都)

②テーマ

「知りたい情報は、届いているのか」－東京電力の不正記載を契機として－

③プログラム

(1) 報告：「東京電力(株)の点検作業不正記載について」

(2) 第1部：パネルディスカッション

(3) 第2部：会場参加者からご意見を聴く会

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員(座長)、碧海委員(2部司会・進行)、

井上委員(2部司会・進行)、小川委員、中村委員(1部司会・進行)、

吉岡委員

(パネリスト)

清水 鳩子 主婦連合会副会長

住田 健二 大阪大学名誉教授

田岡 俊次 「AERA」シニアスタッフライター

(説明者)

片山 正一郎 経済産業省原子力安全・保安院 審議官

杉浦 好之 経済産業省 原子力安全・保安院 原子力安全調整官

梶本 晃章 東京電力(株)取締役副社長

大出 厚 東京電力(株)原子力管理部長

(原子力委員)

遠藤委員長代理、竹内委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約180名(うち、第2部での意見発表者は11名)

⑥概要

「知りたい情報は、届いているのか」－東京電力の不正記載を契機として－をテーマに開催しました。約180名の参加があり、情報公開、国や企業などの姿勢について多様な意見が出されました。

(4) 第4回（市民参加懇談会 i n 青森）

①開催日時及び場所

日時：平成15年3月15日（土）13:00～16:40

場所：男女共同参画プラザ カダール（青森市）

②テーマ

「知りたい情報は届いていますか」－核燃料サイクルを考える－

③プログラム

(1) 報告：日本の原子力（核燃料サイクル等）を巡る状況について

(2) 第1部：パネルディスカッション

(3) 第2部：会場参加者からご意見を聴く会

④出席者

（市民参加懇談会）

木元原子力委員（座長）、碧海委員（2部司会・進行）、井上委員、小川委員、加藤委員、中村委員（1部司会・進行）、松田委員、吉岡委員（2部司会・進行）

（パネリスト）

芦野 栄子 エッセイスト

近藤 駿介 東京大学大学院教授

蟹瀬 誠一 キャスター・ジャーナリスト

（説明者）

内閣府、経済産業省 原子力安全・保安院、日本原燃株式会社

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約200名（うち、第2部での意見発表者は12名）

⑥概要

「知りたい情報は届いていますか」－核燃料サイクルを考える－をテーマに開催しました。約200名の参加があり、情報公開のあり方や教育の必要性など多様な意見が出されました。

(5) 第5回（市民参加懇談会 i n 敦賀）

①開催日時及び場所

日時：平成15年6月28日（土）13:00～17:00

場所：福井県敦賀市総合福祉センター「あいあいプラザ」（敦賀市）

②テーマ

「原子力と地域社会」－原子力が地域にもたらすプラスとマイナスを考える－

③プログラム

(1) 第1部：パネルディスカッション

(2) 第2部：会場参加者からご意見を聴く会

④出席者

（市民参加懇談会）

木元原子力委員（座長）、森脇原子力委員、碧海委員、
井上委員（2部司会・進行）、中村委員（1部司会・進行）、
松田委員（2部司会・進行）、吉岡委員

（パネリスト）

平山 禮子 敦賀市女性エネの会会長
住田 健二 大阪大学名誉教授
橋詰 武宏 福井新聞論説委員長（説明者）

（関係者）

内閣府、文部科学省、経済産業省 資源エネルギー庁、
経済産業省 原子力安全・保安院、核燃料サイクル開発機構、関西電力株式会社、
日本原子力発電株式会社

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約250名（うち、第2部での意見発表者は14名）

⑥概要

「原子力と地域社会」－原子力が地域にもたらすプラスとマイナスを考える－
をテーマに開催しました。約250名の参加があり、今後の共生のあり方やもん
じゅの今後についてなど多様な意見が出されました。

(6) 第6回(市民参加懇談会 in さいたま)

①開催日時及び場所

日時：平成15年10月14日(火) 13:00～16:30

場所：ラフレさいたま 「櫻ホール」(さいたま市)

②テーマ

「この夏の電力危機とは何だったのか」

ー電力の消費地から安定供給を考えるー

③プログラム

(1)第1部：パネルディスカッション

(2)第2部：会場参加者からご意見を聴く会

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員、森脇原子力委員、碧海委員、井上委員、小川委員、
蟹瀬委員(司会・進行)、東嶋委員、吉岡委員

(パネリスト)

新井 光雄 エネルギージャーナリスト

伴 英幸 特定非営利活動法人 原子力資料情報室

樋口 恵子 評論家

(関係者)

内閣府、経済産業省 資源エネルギー庁、東京電力株式会社

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約170名(うち、第2部での意見発表者は9名)

⑥概要

「この夏の電力危機とは何だったのか」ー電力の消費地から安定供給を考えるーをテーマに開催しました。約170名の参加があり、電力危機が起こった背景、電力危機が何をもたらしたかなどについて多様な意見が出されました。

(7) 第7回(市民参加懇談会～長計へのご意見を述べていただく場として～)

①開催日時及び場所

日時：平成16年3月27日(土) 13:00～17:00

場所：銀座フェニックスプラザ フェニックスホール(東京都)

②テーマ

長計へのご意見を述べていただく場として

③プログラム

(1)第1部：発言希望をいただいた方からご意見を聴く会

(2)第2部：発言者、会場参加者からご意見を聴く会

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員(座長)、碧海委員、井上委員、岡本委員、小川委員、小沢委員、東嶋委員、中村委員(司会・進行)、松田委員、吉岡委員

(第1部の「発言希望をいただいた方からご意見を聴く会」でご意見をお伺いした方)

芦野英子(青森県)、大西宏行(茨城県)、川口寛(新潟県)、

アリン・美緒子・ミス(京都府)、中西浩二(愛知県)、根本和泰(東京都)、

吉村清(福井県)、渡辺恵美子(東京都)、渡辺栄雄(埼玉県)

(原子力委員会(オブザーバー))

近藤委員長、齋藤委員長代理、前田委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約110名(うち、第2部での意見発表者は11名)

⑥概要

新たな原子力長期計画のあり方やその検討の進め方を審議、決定するための準備活動を開始したことから、「意見募集」を行い、応募していただいた方から直接ご意見を伺う場として開催しました。意見募集は475件の応募がありました。

約110名の参加があり、第1部「発言希望をいただいた方からご意見を聴く会」では、9名の発言者の方からご意見を伺い、第2部「会場参加者、発言者からご意見を聴く会」では、挙手により会場参加者の11名の方からご意見を伺い、さらに伺ったご意見に関連して、第1部の発言者からもご意見を伺った。原子力長期計画のあり方、位置づけや原子力長期計画策定プロセスなど多様な意見が出されました。

(8) 第8回(市民参加懇談会 i n 福島・ふたば)

①開催日時及び場所

日時：平成16年5月22日(土) 13:30～16:30

場所：パレス華の樹(双葉郡富岡町)

②テーマ

「原子力と暮らし」～これまでと これから～

③プログラム

(1)第1部：パネルディスカッション

(2)第2部：会場参加者からご意見を聴く会

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員(座長)、碧海委員、新井委員、井上委員、加藤委員、東嶋委員、
中村委員(司会・進行)、松田委員、吉岡委員

(第1部のご発言者)

伊藤哲雄(双葉町)、叶谷守久(浪江町)、根本充春(大熊町)、
早川恒久(富岡町)、早川篤雄(檜葉町)、林加奈子(浪江町)、
林久美子(富岡町)、藤田保正(浪江町)、渡辺益子(檜葉町)、
渡辺光夫(富岡町)

(原子力委員会(オブザーバー))

近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員、前田委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約170名(うち、第2部での意見発表者は8名)

⑥概要

「原子力と暮らし」～これまでと これから～をテーマに開催しました。約170名の参加があり、地域振興、信頼、生産地と消費地の温度差、原子力政策、原子力行政などについて多様な意見が出されました。

(9) 第9回(市民参加懇談会～核燃料サイクル政策に関してご意見を述べていただく場として～)

①開催日時及び場所

日時：平成16年10月29日(金) 13:30～17:00

場所：IMPホール(大阪市)

②テーマ

核燃料サイクル政策に関してご意見を述べていただく場として

③プログラム

(1)第1部：発言希望をいただいた方からご意見を聴く会

(2)第2部：会場参加者からご意見を聴く会

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員(座長) 碧海委員、井上委員、小川委員、東嶋委員、
中村委員(司会・進行)、吉岡委員

(第1部のご発言者)

飯田秀男(大阪府)、池島芙紀子(大阪府)、石黒順二(福井県)、
小林萬智子(大阪府)、佐藤大介(大阪府)、中尾佳世子(大阪府)、
中畠哲演(福井県)

(原子力委員会(オブザーバー))

近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員、前田委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約180名(うち、第2部での意見発表者は19名)

⑥概要

新計画策定会議において調査審議されている「核燃料サイクル政策」に関して、ご意見を伺う場として開催しました。約180名の参加があり、エネルギーセキュリティ、核不拡散、「もんじゅ」などについて多様な意見が出されるとともに、美浜発電所3号機事故に関しても意見が出されました。

(10) 第10回(市民参加懇談会 in 福岡)

①開催日時及び場所

日時：平成17年9月26日(月) 13:30～17:00

場所：アクロス福岡(福岡市)

②テーマ

「原子力と暮らし」～知りたい情報は届いていますか～

③プログラム

(1)第1部：パネルディスカッション

(2)第2部：会場参加者からご意見を聴く会

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員(座長)、碧海委員、新井委員、井上委員、小川委員、小沢委員、
中村委員(司会・進行)、東嶋委員、吉岡委員

(パネリスト)

井川 陽次郎 読売新聞東京本社 論説委員

出光 一哉 九州大学大学院工学研究院エネルギー量子工学部門教授

大谷 鮎子 女性のくらし研究所所長

小出 まずる NPO エコネットふくおか事務局長

(原子力委員会(オブザーバー))

齋藤委員長代理、前田委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約160名(うち、第2部での意見発表者は12名)

⑥概要

「原子力と暮らし」～知りたい情報は届いていますか～をテーマに開催しました。約160名の参加があり、情報発信の在り方及び受け取り方について、原子力政策、マスメディアの役割、学校でのエネルギー教育、環境問題、プルサーマル計画などの面から多様な意見が出されました。

(11) 第11回(市民参加懇談会 in 御前崎)

①開催日時及び場所

日時：平成17年10月5日(水) 13:30～17:00

場所：新野公民館(御前崎市)

②テーマ

「知りたい情報は届いていますか」～これまでと、これから～

③プログラム

(1)第1部：市民の方(事前に依頼)からのご意見発表

(2)第2部：会場参加者からご意見発表

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員(座長)、碧海委員、新井委員、井上委員、小沢委員、
中村委員(司会・進行)、吉岡委員

(第1部のご意見発表者)

池田 文明 御前崎市在住

大澤 幸子 御前崎市在住

大澤 尚登 御前崎市在住

片山 満洲雄 浜岡商工会副会長

鈴木 俊夫 御前崎市在住

藤原 照巳 御前崎市在住

増田 勲 夢咲農業協同組合浜岡地区担当理事

増田 勇一 御前崎漁業協同組合長

柳沢 静雄 御前崎市在住

山下 マサ子 御前崎町商工会女性部長

(原子力委員会(オブザーバー))

近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員、前田委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約240名(うち、第2部での意見発表者は15名)

⑥概要

「知りたい情報は届いていますか」～これまでと、これから～をテーマに開催しました。約240名の参加があり、テーマである知りたい情報に関して、原子力発電の安全性、プルサーマルなどの多様な意見が出されました。

(12) 第12回(市民参加懇談会 in 姫路)

①開催日時及び場所

日時：平成18年3月11日(土) 13:30～17:00

場所：姫路市文化センター(姫路市)

②テーマ

「21世紀の放射線利用について」～知りたい情報は届いていますか～

③プログラム

(1)第1部：パネルディスカッション

(2)第2部：事前に頂いたご意見についての意見交換

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員(座長)、碧海委員、井上委員、小川委員、蟹瀬委員、東嶋委員、
中村委員(司会・進行)、吉岡委員

(パネリスト)

浅田 浄江 ウィメンズ・エナジー・ネットワーク代表

阿部 光幸 兵庫県立粒子線医療センター名誉院長

小佐古 敏荘 東京大学大学院工学系研究科教授

小若 順一 NPO 法人 食品と暮らしの安全基金代表

多田 幹郎 岡山大学大学院自然科学研究科教授

南波 秀樹 日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所長

安田 節子 食政策センター・ビジョン21代表

(原子力委員会(オブザーバー))

近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員、前田委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約170名

⑥概要

「21世紀の放射線利用について」～知りたい情報は届いていますか～をテーマに開催しました。約170人の参加があり、医療分野、農業分野、工業分野における放射線利用について多様な意見が出されるとともに、広聴・広報活動、教育等に関しても意見が出されました。

(13) 第13回(市民参加懇談会 in 札幌)

①開催日時及び場所

日時：平成18年9月29日(金) 13:30～17:00

場所：札幌市生涯学習センター(札幌市)

②テーマ

原子力 ～知りたい情報は届いていますか～

③プログラム

(1)第1部：パネルディスカッション

(2)第2部：会場参加者からご意見を聴く

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員(座長)、碧海委員、浅田委員、新井委員、出光委員、井上委員、小川委員、東嶋委員、中村委員(司会・進行)

(パネリスト)

大友 詔雄 特定非営利活動法人 北海道新エネルギー普及促進協会理事長

佐藤 正知 北海道大学大学院工学研究科教授

佐藤 のりゆき テレビキャスター

(原子力委員会(オブザーバー))

近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員、前田委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：約120名(うち、第2部での意見発表者は2名)

⑥概要

「原子力～知りたい情報は届いていますか～」をテーマに開催しました。約120人の参加があり、パネリスト間で原子力発電の安全性、環境問題等の多様な意見が出されました。

(14) 第14回(市民参加懇談会 in 松江)

①開催日時及び場所

日時：平成18年12月6日(水) 17:30～20:45

場所：松江テルサ(松江市)

②テーマ

原子力 ～知りたい情報は届いていますか～

③プログラム

(1)第1部：市民の方(事前に依頼)からのご意見発表

(2)第2部：会場参加者からご意見発表

④出席者

(市民参加懇談会)

木元原子力委員(座長)、碧海委員、浅田委員、新井委員、井上委員、小川委員、東嶋委員、吉岡委員、中村委員(司会・進行)

(パネリスト)

青山 修一 松江市在住

安達 慶太郎 鹿島地域協議会 教育福祉部会長

杉谷 肇 平和フォーラムしまね代表

曾我部 國久 出雲科学館館長

高田 純 札幌医科大学医学部教授、放射線防護医療研究会・代表世話人

高山 幸子 松江くらしといのちのネットワーク代表

広瀬 徹 松江商工会議所青年部直前会長

(原子力委員会(オブザーバー))

近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員、前田委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：124名(うち、第2部での意見発表者は5名)

⑥概要

「原子力～知りたい情報は届いていますか～」をテーマに開催しました。約120人の参加があり、テーマである知りたい情報に対して、広聴・広報活動、教育、原子力防災などの多様な意見が出されました。

(15) 第15回(市民参加懇談会 in 横浜)

①開催日時及び場所

日時：平成19年10月29日(月) 13:30～16:40

場所：新都市ホール(横浜新都市ビル(そごう)9F)(横浜市)

②テーマ

原子力 ～知りたい情報は届いていますか～「新潟県中越沖地震に学ぶ」

③プログラム

(1)第1部：ご意見発表と意見交換

(2)第2部：会場に参加された方々からご意見をいただく

④出席者

(市民参加懇談会)

中村座長(司会・進行)、浅田委員、新井委員、出光委員、小川委員、小沢委員、東嶋委員、吉岡委員

(第1部のご意見発表者)

新野 良子 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会 会長

入倉 孝次郎 愛知工業大学 客員教授

工藤 健二 東京電力(株) 執行役員 原子力・立地部長

須田 幹一 柏崎市市民生活部防災・原子力課長

高橋 徳美 横浜市在住／元 南区民会議防災分科会部会長

内藤 信寛 柏崎観光協会 会長

松原 純子 (財)放射線影響協会 研究参与

(原子力委員会(オブザーバー))

近藤委員長、田中委員長代理、松田委員、伊藤委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：117名(うち、第2部での意見発表者は5名)

⑥概要

「原子力～知りたい情報は届いていますか～『新潟県中越沖地震に学ぶ』」をテーマに開催しました。約120人の参加があり、地震時の原子力施設についての情報提供や報道、および普段からの教育や関係者間のコミュニケーション等に関して多様な意見が出されました。

(16) 第16回(市民参加懇談会 in 富山)

①開催日時及び場所

日時：平成20年1月21日(月) 13:00～16:10

場所：とやま自遊館 自遊館ホール(富山市)

②テーマ

原子力 ～知りたい情報は届いていますか～「新潟県中越沖地震に学ぶ」

③プログラム

(1)第1部：ご意見発表と意見交換

(2)第2部：会場に参加された方々からご意見をいただく

④出席者

(市民参加懇談会)

中村座長(司会・進行)、浅田委員、新井委員、小川委員

(第1部のご意見発表者)

新野 良子 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会 会長

川俣 晋 東京電力(株) 柏崎刈羽原子力発電所ユニット所長(1～4号)

瀬瀬 一起 国立大学法人東京大学地震研究所 教授

田中 広光 高岡市立芳野中学校 教諭

内藤 信寛 柏崎観光協会 会長

中山 里志 刈羽村企画広報課 課長

廣川 武司 社会福祉法人刈羽村社会福祉協議会 会長

水野 幹久 経済産業省原子力安全・保安院原子力安全広報課 原子力保安統括管理官

(原子力委員会(オブザーバー))

近藤委員長、田中委員長代理、松田委員、伊藤委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：147名(うち、第2部での意見発表者は4名)

⑥概要

「原子力～知りたい情報は届いていますか～『新潟県中越沖地震に学ぶ』」をテーマに開催しました。約150人の参加があり、地震時の原子力施設についての情報提供や報道、および義務教育段階でのエネルギー教育や活断層の評価等に関して多様な意見が出されました。

(17) 第17回(市民参加懇談会 in 京都)

①開催日時及び場所

日時：平成20年6月2日(月) 13:30～16:30

場所：京都センチュリーホテル「瑞鳳」(京都市)

②テーマ

原子力 ～知りたい情報は届いていますか～「地球温暖化と原子力」

③プログラム

(1)第1部：ご意見発表と意見交換

(2)第2部：会場に参加された方々からご意見をいただく

④出席者

(市民参加懇談会)

中村座長(司会・進行)、浅田委員、新井委員、岡本委員、小沢委員、東嶋委員、吉岡委員

(第1部のご意見発表者)

浅岡 美恵 特定非営利法人気候ネットワーク 代表

上杉 祐都 世界学生環境サミット in 京都 実行委員長、同志社大学3回生

佐伯 久子 京都市地域女性連合会 副会長

竹下 玄太 京都教育大学大学院教育学研究科 1回生

手塚 哲央 京都大学大学院エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 教授

(原子力委員会(オブザーバー))

近藤委員長、田中委員長代理、松田委員、伊藤委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：187名(うち、第2部での意見発表者は4名)

⑥概要

「原子力～知りたい情報は届いていますか～『地球温暖化と原子力』」をテーマに開催しました。約190人の参加があり、地球温暖化対策の中での原子力の位置付け、原子力を含むエネルギー教育等に関して多様な意見が出されました。

(18) 第18回(市民参加懇談会 in 鹿児島)

①開催日時及び場所

日時：平成21年2月15日(日) 13:00～16:00

場所：ブルーウェーブイン鹿児島「楠」(鹿児島市)

②テーマ

原子力 ～知りたい情報は届いていますか～「地球温暖化と原子力」

③プログラム

(1)第1部：ご意見発表と意見交換

(2)第2部：会場に参加された方々からご意見をいただく

④出席者

(市民参加懇談会)

中村座長(司会・進行)、浅田委員、新井委員、出光委員、東嶋委員、吉岡委員
(第1部のご意見発表者)

石窪 奈穂美 消費生活アドバイザー

大迫 香寿枝 Coaching STEP 代表

中迫 綾香 鹿児島大学大学院 理工学研究科 博士前期課程1年生

松村 博久 鹿児島大学名誉教授

宮越 成彬 九州大学21世紀プログラム課程 2年生

(原子力委員会(オブザーバー))

田中委員長代理、松田委員

⑤会場参加者数及び会場からのご意見発表者数

会場参加者数：57名(うち、第2部での意見発表者は6名)

⑥概要

「原子力～知りたい情報は届いていますか～『地球温暖化と原子力』」をテーマに開催しました。約60人の参加があり、地球温暖化対策の中での原子力の位置付け、原子力情報の理解のための受け手、出し手双方の方策等に関して多様な意見が出されました。

3 地域での懇談会におけるアンケート等の整理について

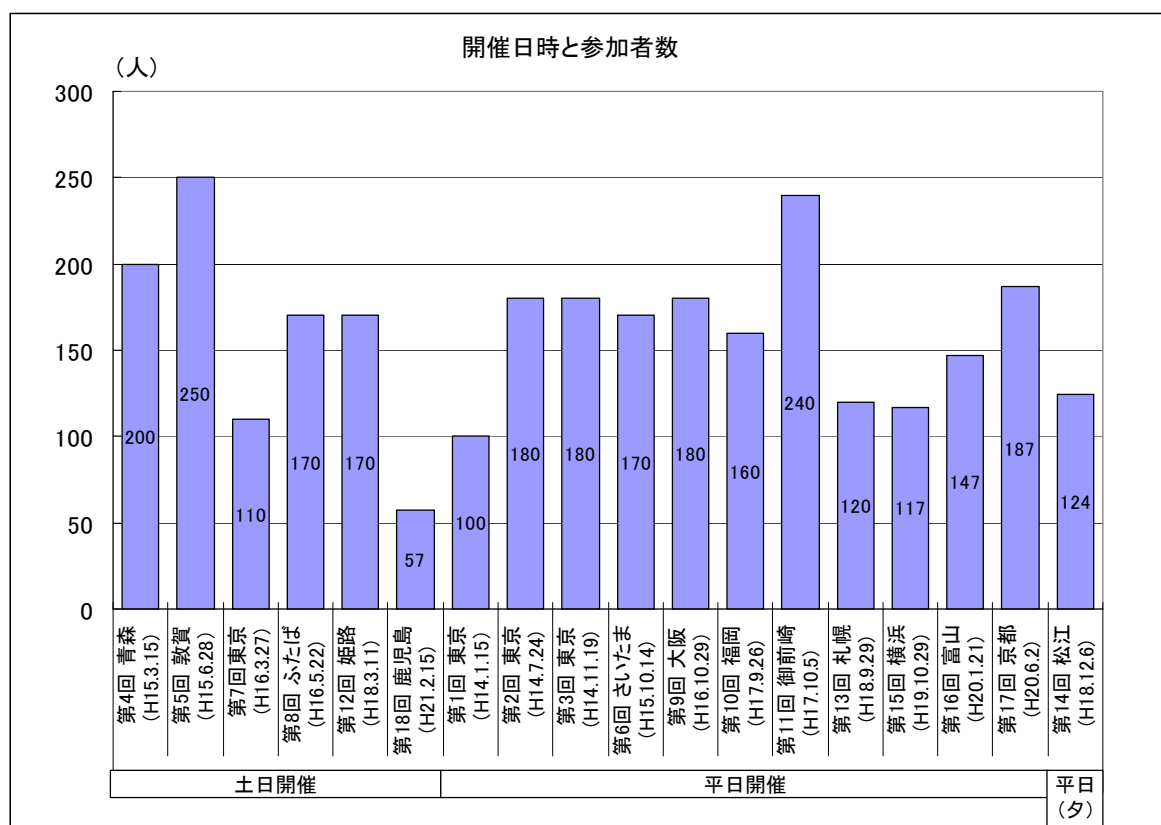
3. 1 アンケートの整理

地域での懇談会におけるアンケートの集約結果は、添付3のとおりである。以下、アンケートを整理した結果を示す。

(1) 会場参加者数および構成について

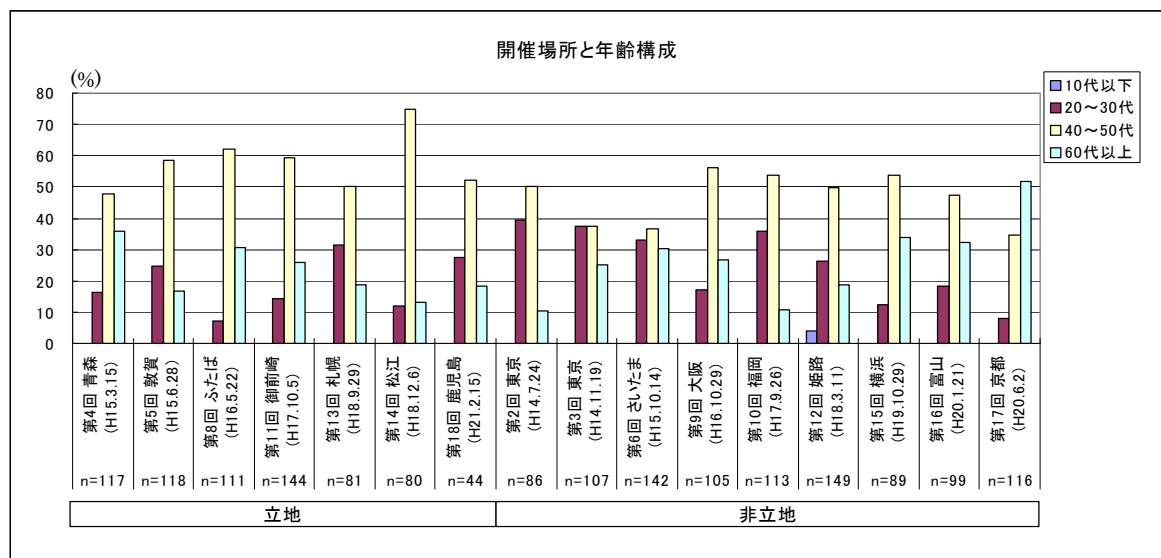
参加者数については、全体の平均が約160人、最多250人（第5回敦賀）、最少57人（第18回鹿児島）であった。参加者数と開催日時／場所との間には特徴的な傾向は見られなかった。

【開催日時と参加者数】



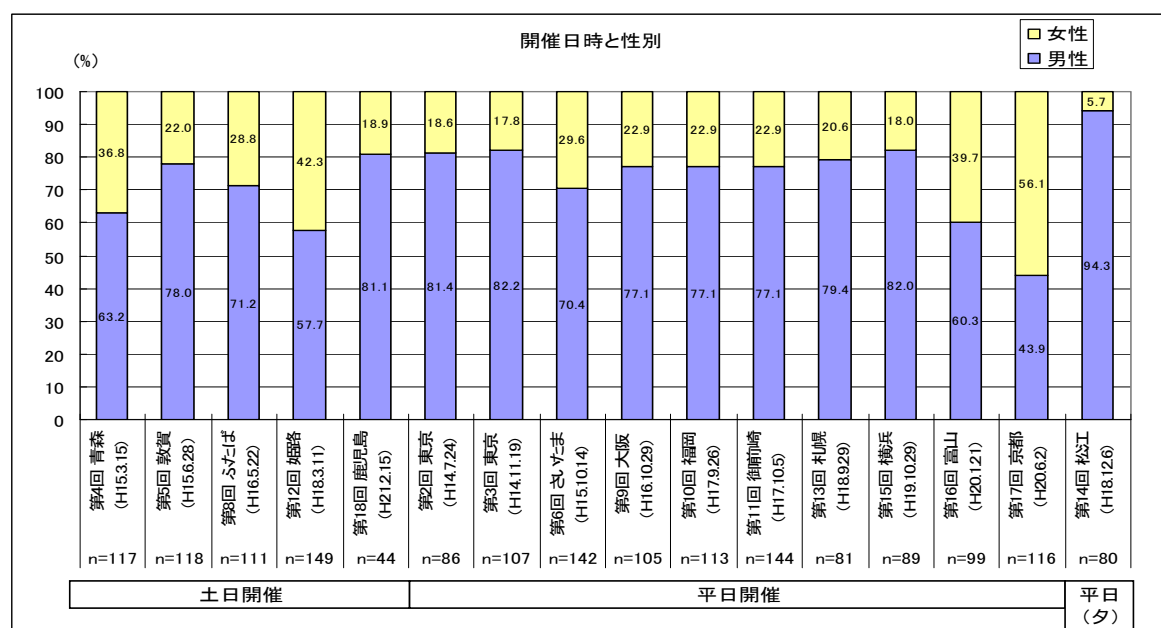
参加者の年齢構成については、全体の平均が、20～30代が22.5%、40～50代が51.3%、60代以上が25.8%、その他が0.4%であった。参加者の年齢構成と開催日時／場所との間には特徴的な傾向は見られなかった。

【開催場所と年齢構成】



参加者の性別については、全体の平均が、男性73.0%、女性27.0%であった。女性参加者の比率の最大は56.3%（第17回京都）、最小は5.7%（第14回松江）であった。参加者の性別と開催日時／場所との間には特徴的な傾向は見られなかった。

【開催日時と性別】



(2) 会場参加者の満足度について

会場参加者の満足度については、全体の平均で、満足 64.3%、不満 18.3%であった。

満足度の高い回は、第3回東京（満足 86.0%、テーマ：知りたい情報は届いているのか～東京電力の不正転載を契機として～）、第12回姫路（満足 83.9%、テーマ：21世紀の放射線利用について～知りたい情報は届いていますか～）、第14回（満足 78.9%、テーマ：原子力～知りたい情報は届いていますか～）であった。

また、満足度が低い回は、第2回東京（不満 59.3%、テーマ：①日本のエネルギーの需要と供給、②原子力発電は必要か不要か、③原子力政策決定過程と市民）、第11回御前崎（不満 33.3%、テーマ：知りたい情報は届いていますか～これまでと、これから）、第6回さいたま（不満 26.8%、テーマ：この夏の電力危機とは何だったのか～電力消費地から安定供給を考える～）、第5回敦賀（不満 15.3%、テーマ：原子力と地域社会～原子力が地域にもたらすプラスとマイナスを考える～）であった。

満足度に関するアンケートの自由記述欄におけるご意見の整理結果は添付4のとおりである。

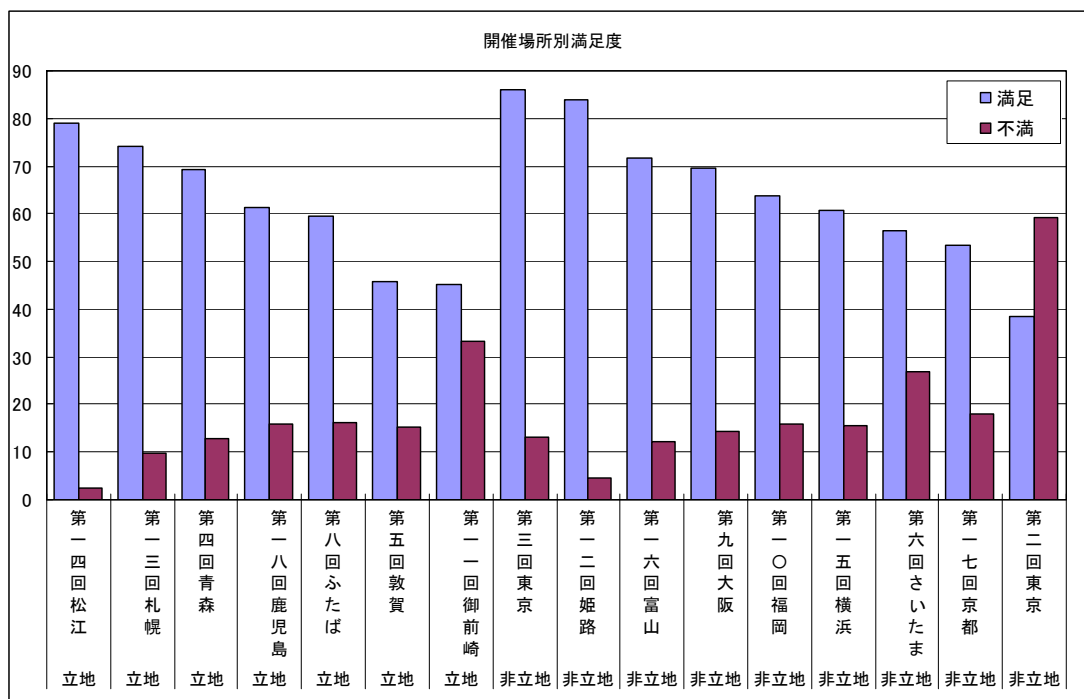
「満足」の意見としては、「様々な立場からの意見を聞くことができた」という意見が多い。また、「平面フロアーで臨場感があり自分が参加している意識を持つことができたから」との会場レイアウトに関する意見もあった。

「不満足」の意見としては、「テーマを絞った議論としてほしい」、「パネリストや意見が原子力推進（もしくは反対）に偏っている」という意見が多い。

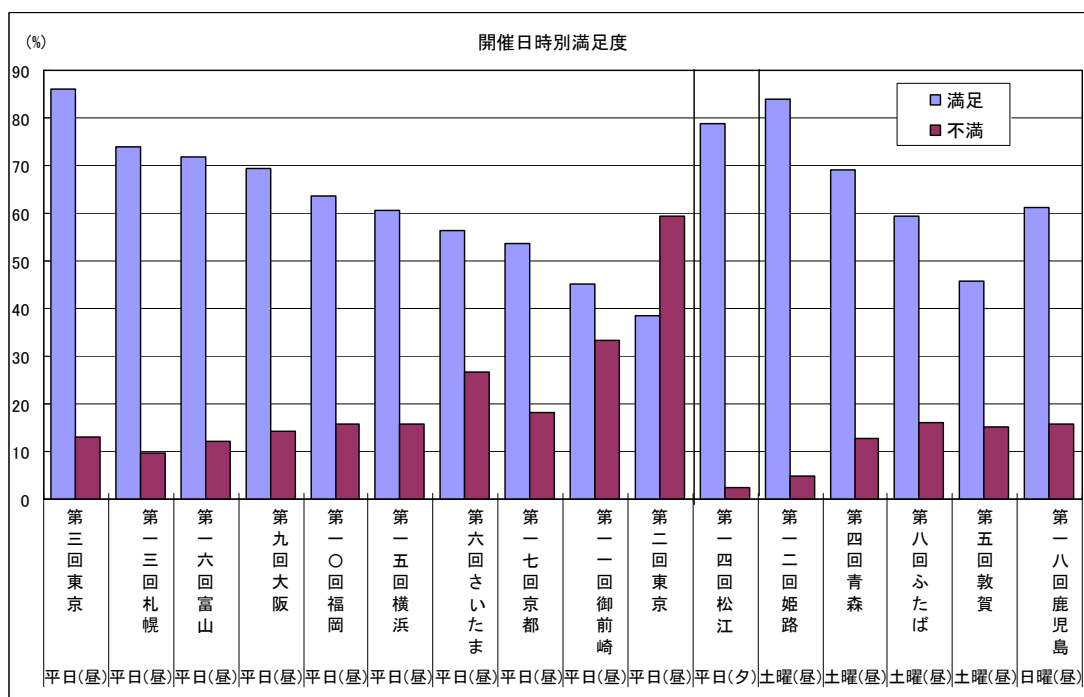
①開催日時、開催場所

会場参加者の満足度と開催場所（立地／非立地）、開催日時（土日／平日／平日夕方）との間には特徴的な傾向は見られなかった。

【開催場所と満足度】



【開催日時と満足度】



②満足度に関する考察

会場参加者の満足度とテーマ設定の関係は下表に示す。

【テーマと満足度（満足度の高い順に整理）】

	テーマと満足度				内容	大まかなテーマ分類
	満足	普通	不満	無回答		
第3回 東京(H14.11.19) n=107	86.0	0.0	13.0	0.9	東京電力の点検作業不正記載について	絞られたテーマ
第12回 姫路(H18.3.11) n=149	83.9	11.4	4.7	0.0	21世紀の放射線利用	身近な生活に関連したテーマ・絞られたテーマ
第14回 松江(H18.12.6) n= 80	78.9	17.5	2.5	1.3	原子力～知りたい情報は届いているか	幅広いテーマ
第13回 札幌(H18.9.29) n= 81	74.0	13.6	9.8	2.5	原子力～知りたい情報は届いているか	幅広いテーマ
第16回 富山(H20.1.21) n= 99	71.7	15.2	12.1	1.0	原子力～新潟中越沖地震に学ぶ	絞られたテーマ
第9回 大阪(H16.10.29) n=105	69.5	14.3	14.3	1.9	核燃料サイクル政策に関して	絞られたテーマ
第4回 青森(H15.3.15) n=117	69.2	16.2	12.8	1.7	核燃料サイクルをめぐる状況について	絞られたテーマ
第10回 福岡(H17.9.26) n=113	63.7	18.6	15.9	1.8	原子力と暮らし	身近な生活に関連したテーマ・幅広いテーマ
第18回 鹿児島(H21.2.15) n= 44	61.3	22.7	15.9	0.0	地球温暖化と原子力	幅広いテーマ
第15回 横浜(H19.10.29) n= 89	60.6	21.3	15.7	2.2	原子力～新潟中越沖地震に学ぶ	絞られたテーマ
第8回 ふたば(H16.5.22) n=111	59.5	21.6	16.2	2.7	原子力と暮らし(地域振興、安全、安心、信頼)	幅広いテーマ
第6回 さいたま(H15.10.14) n=142	56.3	16.9	26.8	0.0	この夏の電力危機は何だったのか	絞られたテーマ
第17回 京都(H20.6.2) n=116	53.5	26.7	18.1	1.7	地球温暖化と原子力	幅広いテーマ
第5回 敦賀(H15.6.28) n=118	45.8	36.4	15.3	2.5	原子力と地域社会	幅広いテーマ
第11回 御前崎(H17.10.5) n=144	45.1	20.1	33.3	1.4	これまでとこれから	幅広いテーマ
第2回 東京(H14.7.24) n= 86	38.4	0.0	59.3	2.3	・日本のエネルギーの需要と供給 ・原子力発電は必要か不要か ・原子力政策決定過程と市民	幅広いテーマ

満足度の高い回のテーマは、

- ・ 第3回東京：東京電力の記録改ざん問題が発生した時期に、当該テーマにて開催。
- ・ 第12回姫路：医療、農業、工業における放射線利用という身近なテーマにて開催。
- ・ 第14回松江：「原子力～知りたい情報は届いていますか～」という幅広いテーマであったが、市町村合併1年半後であり、また、島根2号プルサーマルについて国、県、市が説明会を開催している時期に開催。

という特徴があり、市民が知りたいタイミングで知りたいテーマ設定をした場合に満足度が高い傾向が窺える。

また、満足度の低い回のテーマについて、第11回御前崎については、「これまでとこれから」と幅広いテーマにて開催され、不満とした理由としては、「耐震の説明がないこと」や「原子力に反対の意見が多いこと」といった意見が見られた。

第6回さいたまについては、「電力の安定供給」と比較的絞られたテーマにて開催され、不満とした理由としては、「東電の記録改ざん問題に意見が集中し、意見がテーマと外れる傾向があったこと」といった意見が見られた。

第5回敦賀については、「原子力と地域社会」と幅広いテーマにて開催され、不満とした理由としては、「原子力の是非の意見に集中し、意見がテーマと外れる傾向があったこと」といった意見が見られた。

以上より、テーマ設定が幅広い、もしくは、市民が知りたいテーマ設定になっておらず、ご意見がテーマと合致しない傾向があった場合に満足度が低い傾向が覗える。

なお、第2回東京については、不満足とした理由として、「個人的な考えでなく各界代表者の意見を聴くにとどまった」や「ご意見発表者、コアメンバー、一般参加者の立場、位置付けが良く理解できなかった」といった意見が見られ、ご意見発表者の選定を含む会の運営に対する不満が多かったことが覗える。

(3)「開催時間の長さ」、「市民参加懇談会への期待」及び「開催を何で知ったか」について

「開催時間の長さ」、「市民参加懇談会への期待」、「開催を何で知ったか」についてのアンケート集約結果は、添付3のQ2、Q3、Q4のグラフのとおりである。

「開催時間の長さ」については、全体の平均で、「長かった」43.2%、「適度だった」38.6%、「短かった」15.9%であった。「長かった」の割合が特に大きい回は、第6回さいたま（「長かった」87.3%）であった。また、「適度だった」の割合が大きい回は、第18回鹿児島（「適度だった」65.9%）であった。満足度との相関性が見られず、傾向は読み取ることができなかった。

「市民参加懇談会への期待」については、全体の平均で、「期待している」81.6%、「意見なし」8.1%、「期待できない」8.7%であった。総じて「期待している」が75%以上であり、「期待している」の割合が高い傾向にある。ただし、第6回さいたまについては、「期待している」の割合が29.6%と極端に小さい。全体的な傾向として、期待度と満足度との間には相関性は見られず、当該回の運営等への不満はあるとしても、市民参加懇談会の活動そのものへの期待は大きいことが覗える。

「開催を何で知ったか」については、全体の平均で、「原子力委員会ホームページ」18.3%、「新聞報道」27.2%、「友人・知人から」32.3%、「その他」19.6%であった。「新聞報道」の割合が特に大きい回は、第8回ふたば（「新聞報道」81.9%）であった。また、「その他」の割合が特に大きい回は、第17回京都（「その他」55.2%）であった。全体的な傾向として、各開催におけるばらつきが非常に大きかった。

3. 2 会場からのご意見の整理

会場からのご意見の整理結果は添付5のとおりである。

会場からのご意見については、原子力発電、核燃料の再処理、プルサーマル、高速増殖炉開発、高レベル放射性廃棄物等について多様な立場からの意見が得られたが、反対又は推進の特定の立場を強く持つと見られる方からのご意見も多く見受けられた。また、事業者からの情報公開の必要性や政策のメリット・デメリットなどの情報をわかりやすく説明することの必要性に関する意見、原子力に関する教育に関する意見がしばしば見られた。さらに、地震を始めとする安全に関する意見や新エネルギー・自然エネルギーの重要性に関する意見も見られた。

また、会場からのご意見発表者数について、原子力政策大綱策定（平成17年10月）の前後で比較したところ、策定前（第1回～第11回）の平均が約11名、策定後（第13回～第18回、第12回は会場から伺っていない）の平均が約4名であり、原子力政策大綱策定前の方が会場からのご意見発表が活発であったことが窺える。

4 おわりに

市民参加懇談会は、設置以来ほぼ毎年、原子力施設立地地域及び電力消費地において、様々な政策テーマについてコアメンバーが他に専門家などを交えて、原子力政策に関して市民と対話する会合を開催してきました。各地の会合においては、原子力委員会が前面に出ない運営方式に対する批判もあり、ときにはコアメンバーと同じように原子力委員がもっと自由に発言するべきではないかと言う議論もありましたが、同席して、発言したい気持ちを抑えてコアメンバーの皆様のご尽力による市民の思いの吐露をじっと聴くことが、市民の思いを大事に思っている委員会からのメッセージになると考えて、この方針を貫いてきました。そして、そうした地域における会合の結果について定例会議で報告を受け、当該政策課題領域における委員会の政策策定及び政策評価活動において活用するようにはしてきました。

最近に至っては、政府も地方自治体も行政運営における国民参加の重要性を認識して、それぞれに工夫して市民との対話の取組を行っています。原子力委員会の市民参加懇談会はそうした取組のさきがけとなったと考えます。また、市民参加懇談会の会合は、コアメンバーが、時に市民の仲間として、時に公衆との関係を大事にする専門家として、原子力政策に対して市民が抱いている気持ちを引き出し、市民がその発言を通じ、専門家との原子力政策に係る対話の時間を共有して、政策の議論に直に関わる体験をしていただくという一つの方式を提示できたと思います。この報告書にとりまとめられているアンケート調査の結果は、今後同様な会合を設計・運用する際の参考にしていただけるものと考えます。

議事録を通読してみて、コアメンバーにより引き出された毎回の会合における市民の発言に通底しているのは、行政や事業に取り組んでいる者が信頼できるのかどうか知りたいという思いではないかと感じます。また、こうした信頼することに対する不安が市民から表明されたときには、行政や事業者がその不安の原因になっている情報に対する解説や批評を迅速に行うことが求められていることを感じます。後者については、原子力政策大綱においても行政、事業者に求めているところであり、現在は、例えばプルサーマルの安全性や耐震安全性の再評価の結果について、第一義的に説明責任を有する行政や事業者が、全国各地で説明会等を開催して、直接の対話に努めています。関係者におかれては、説明責任の担い手であることを忘れないで、その方法の更なる進化を追求するべきと考えます。特に、行政や事業者が、各地で、いわば祭典としてではなく、日常の一部として開催する市民との対話の中で、不安・不信に転化する前兆をとらえていくことは重要であり、関係者が、それぞれの社会的責任を深く自覚して、この方法を工夫し、その感度をとぎすまし

て行かれることを期待します。

原子力委員会の設置趣旨には、原子力行政の民主的運営が謳われており、原子力に関する法律の審議における付帯決議においても国民に十分な説明を行い、地元との信頼関係の構築に努めることが求められてきました。原子力委員会としてはこのことを肝に銘じ、政策評価の取組において実施してきたように、今後とも適宜に市民との対話の機会を持っています。また、関係機関に対しても、この市民参加懇談会の長年の運営で蓄積した知見を活用していくべきことを申し添えて、適宜にこのことに関して注意を喚起していきたいと考えています。

最後に、これまで市民参加懇談会の運営に対してご尽力を賜ったことに対して、歴代のコアメンバーの皆様に心から御礼を申し上げます。

市民参加懇談会の設置について

平成13年7月3日
原子力委員会決定

1. 目的

「原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画」（平成12年11月24日原子力委員会決定）にも示されているとおり、原子力政策は、国民・社会との関係をこれまで以上に重視し、国民の信頼、立地地域との共生などを大前提として進めていかなければならない。

しかしながら、同計画決定後に、原子力を取り巻く状況は一層厳しさを増しており、あらためて、国民・社会との信頼関係を再構築するための努力が強く求められている。

したがって、原子力政策の決定過程における市民参加の拡大を通じて、国民の理解をより一層促進するため、原子力委員会の下に「市民参加懇談会」を設置する。

2. 調査審議事項（活動内容）

(1) 原子力政策における市民参加の促進のための方策

- ① 原子力政策に対する国民意見の反映のあり方
- ② 原子力政策及び原子力関係者の活動に対する「外部からの評価」のあり方
- ③ 原子力政策に対する提言

(2) 原子力政策に対する国民理解の促進のための方策

- ① 「対話の場」や「トピックに関する討論」など、会合のあり方
- ② 原子力に関する正確でわかりやすい情報発信・伝達のあり方
原子力に関する情報の受信・収集とその分析のあり方
- ③ 緊急時における情報伝達のあり方
- ④ 原子力教育・学習のあり方

3. 構成

別途定めることとする。

市民参加懇談会の設置について

平成13年7月 3日
平成19年4月24日(一部改訂)
原子力委員会決定

1. 目的

「原子力政策大綱」（平成17年10月14日閣議決定）は、原子力政策の円滑な実施にあたり広聴活動を国民、地域社会との相互理解を図る活動の出発点に位置付け、それにより得られた意見等を踏まえて、広報や対話の活動を進めていくべきとしている。

また、公聴会や意見募集を行い、政策決定過程への国民参加の機会を用意することに誠実に取り組むことを求めているところ。

このため、原子力委員会の下に「市民参加懇談会」を設置し、原子力政策の決定過程における市民参加の拡大及び、国民の理解をより一層促進することとする。

2. 活動内容

原子力政策における国民の参加や原子力政策に関する国民の理解を促進するため、国民から直接意見を伺う懇談会の開催及びその効果的な実施のための調査検討を行う。また、原子力委員会が行う原子力政策の策定や評価に活用するため、懇談会の開催を通じて把握した国民の意見及び国民参加の促進のための知見を、適宜報告する。

3. 構成

別途定める。

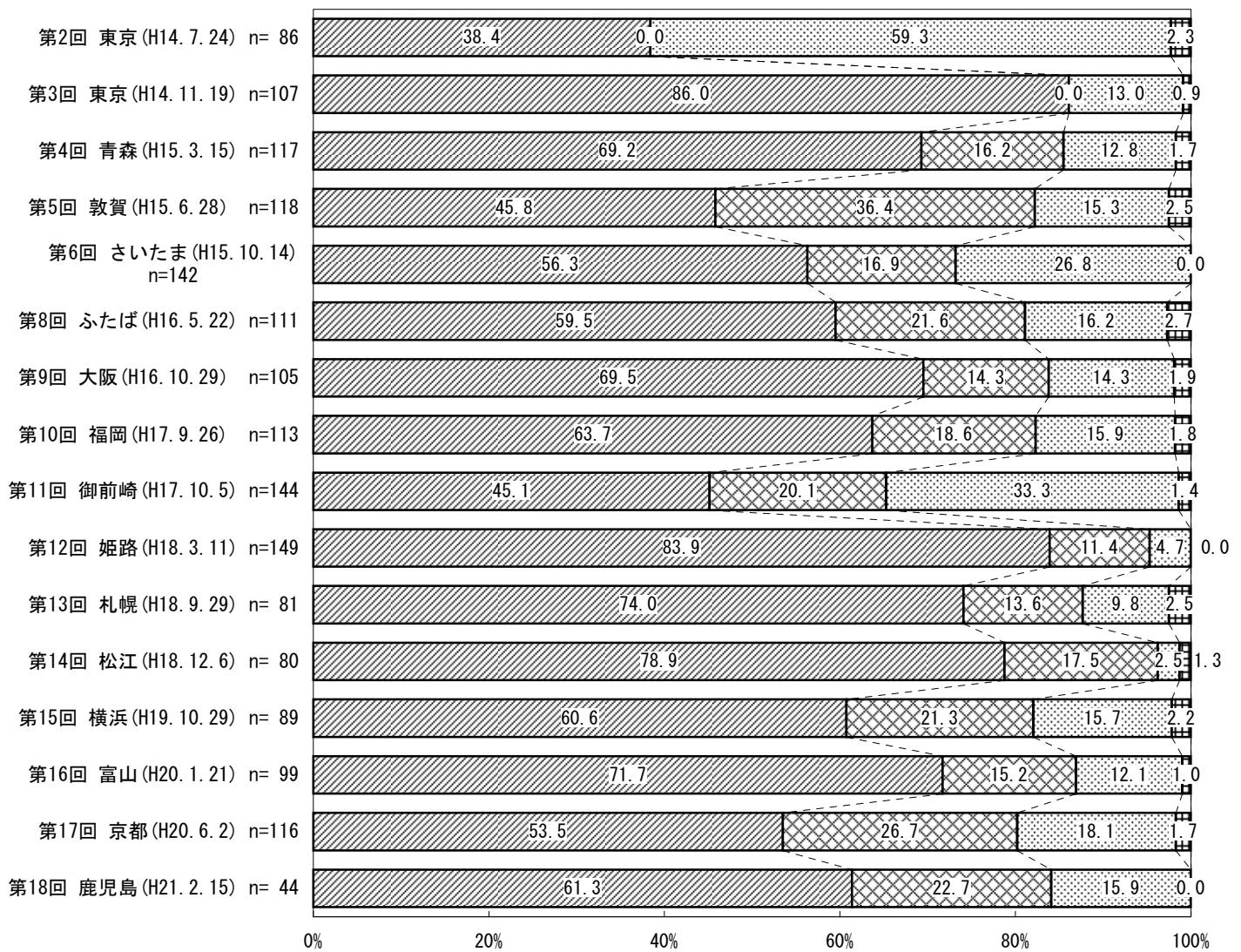
4. その他

懇談会の運営については、原子力委員会専門部会等運営規程を適用する。

市民参加懇談会 アンケート集約結果

本資料は、地域での懇談会のアンケート結果のうち、「内容・雰囲気」、「開催時間」、「市民参加懇談会の活動」、「開催を何で知ったか」、「年代」、「性別」のグラフについて集約したものである。

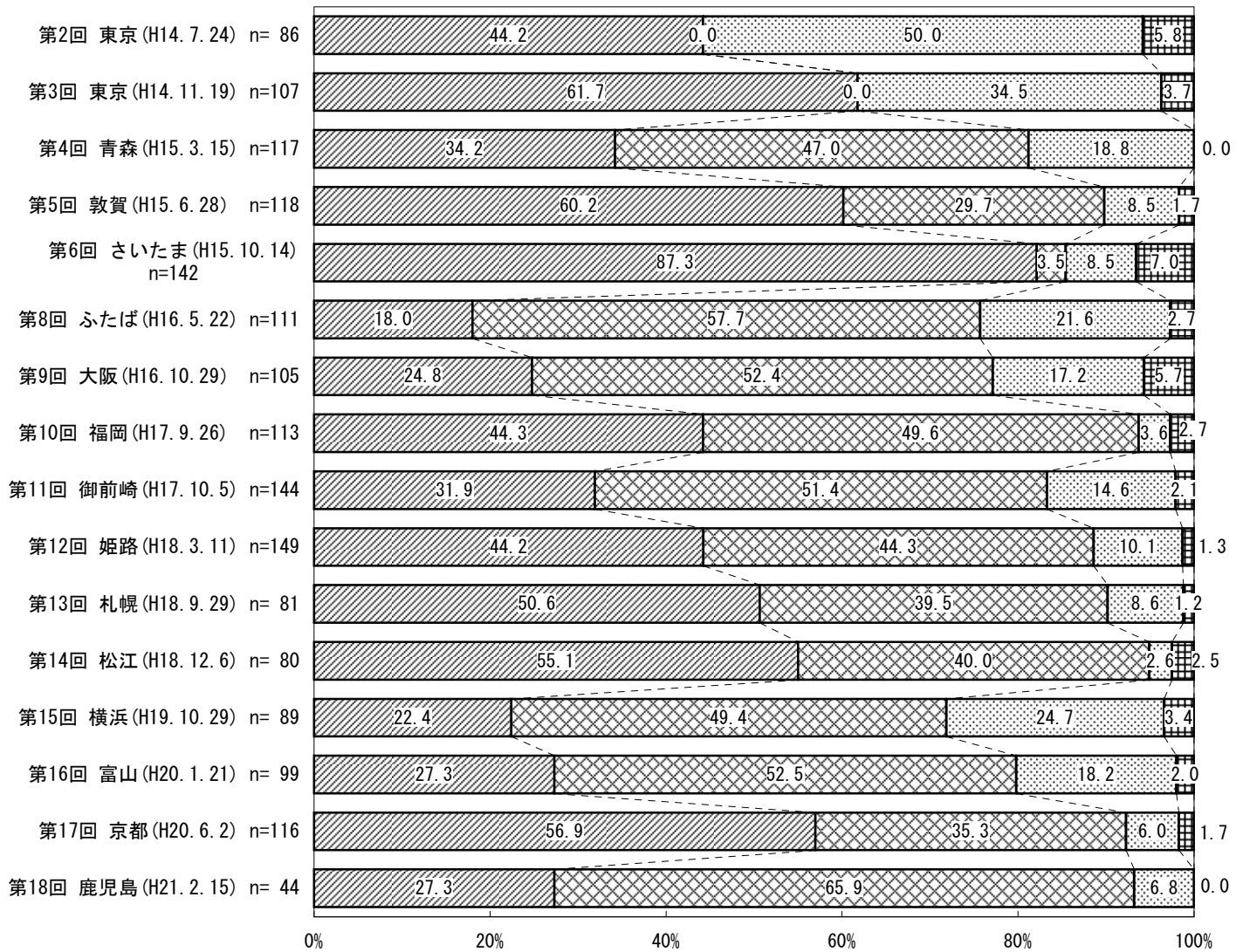
Q 1 : 内容・雰囲気について



* 第1回、第7回はアンケート調査なし
 * 東京開催については「普通」の選択肢はなし

■ 満足 ■ 普通 ■ 不満 ■ 無回答

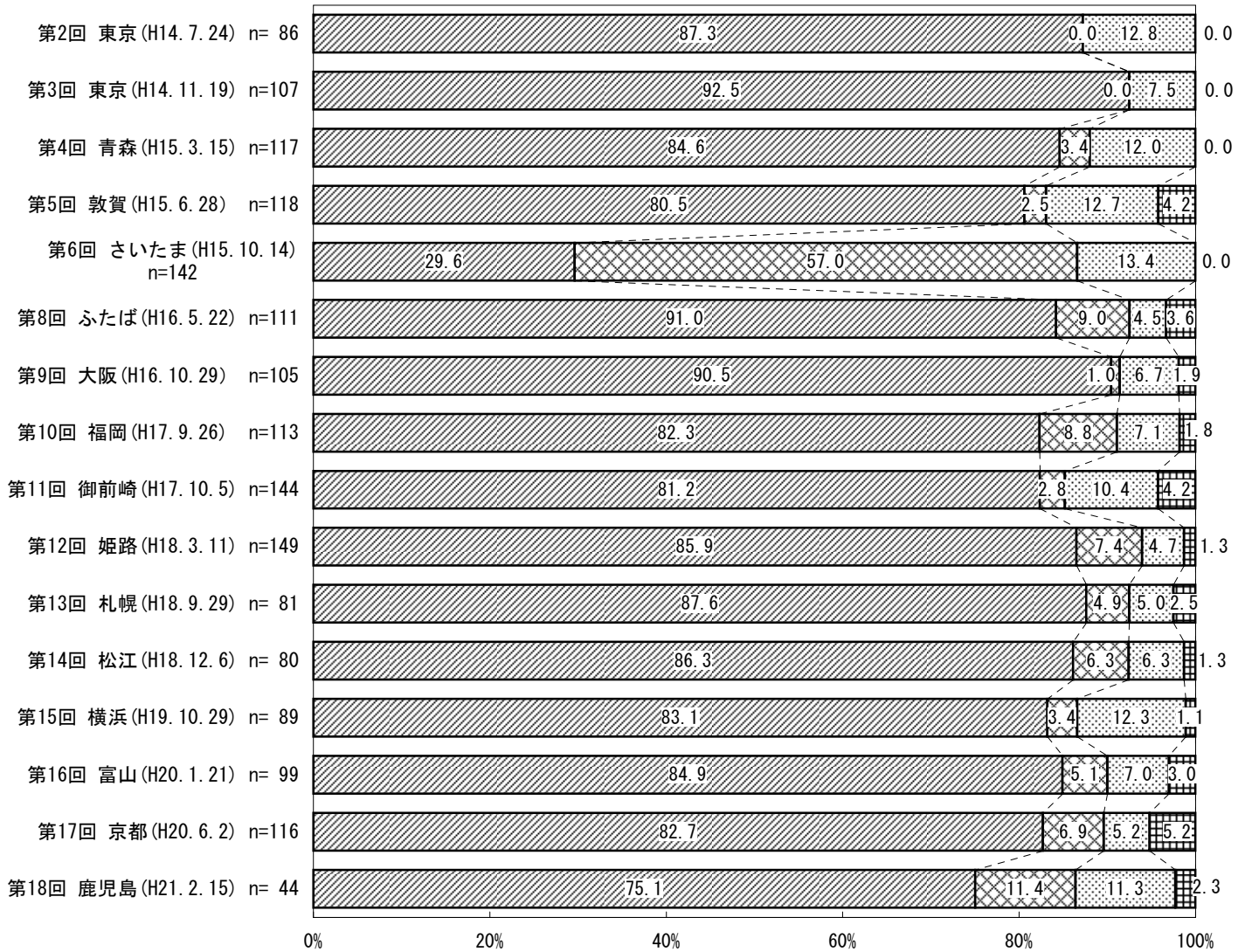
Q 2 : 開催時間について



* 第1回、第7回はアンケート調査なし
 * 東京開催については「適当だった」の選択肢はなし

■長かった ■適当だった ■短かった ■無回答

Q 3 : 市民参加懇談会の活動について

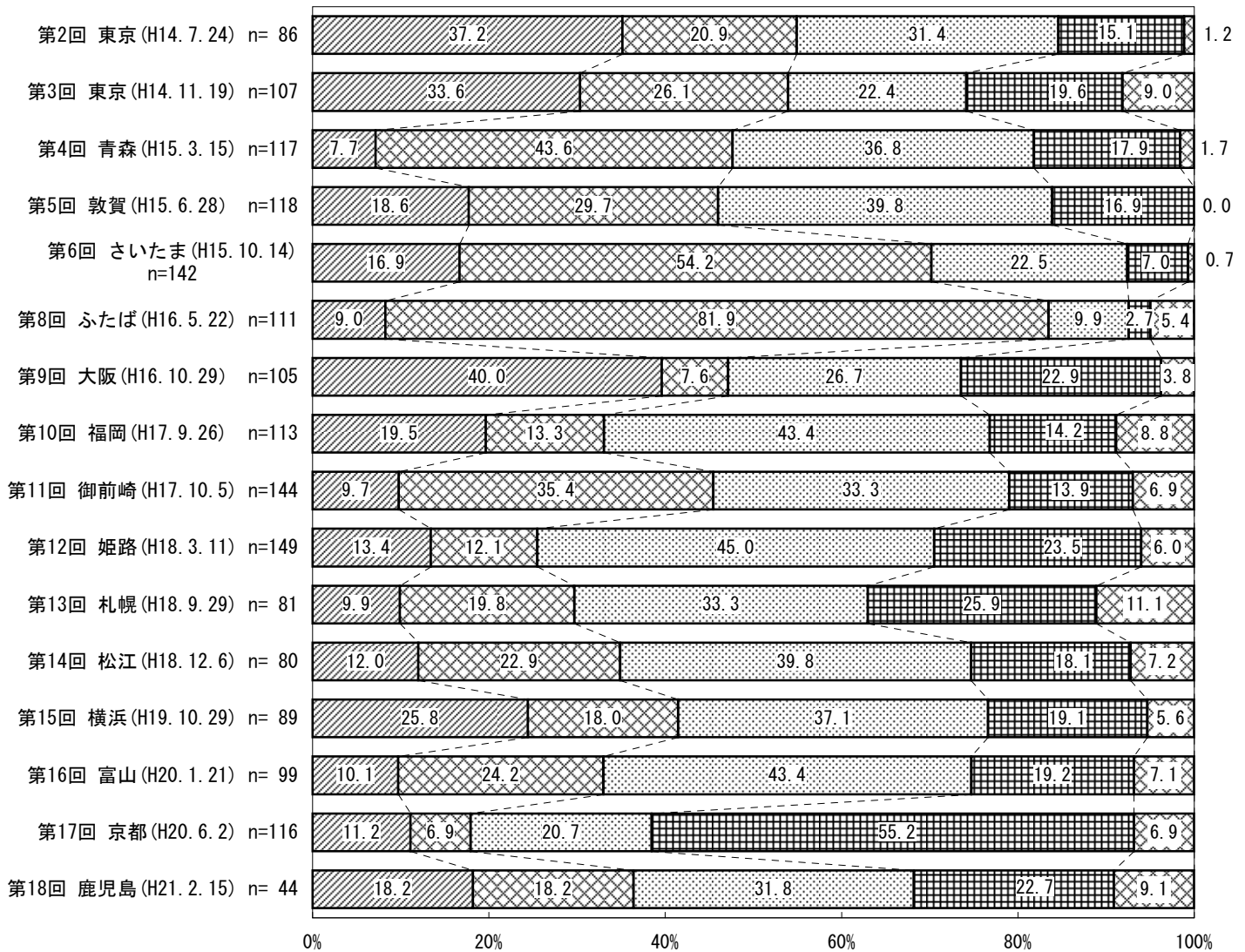


* 第1回、第7回はアンケート調査なし

* 東京開催については「意見なし」の選択肢はなし

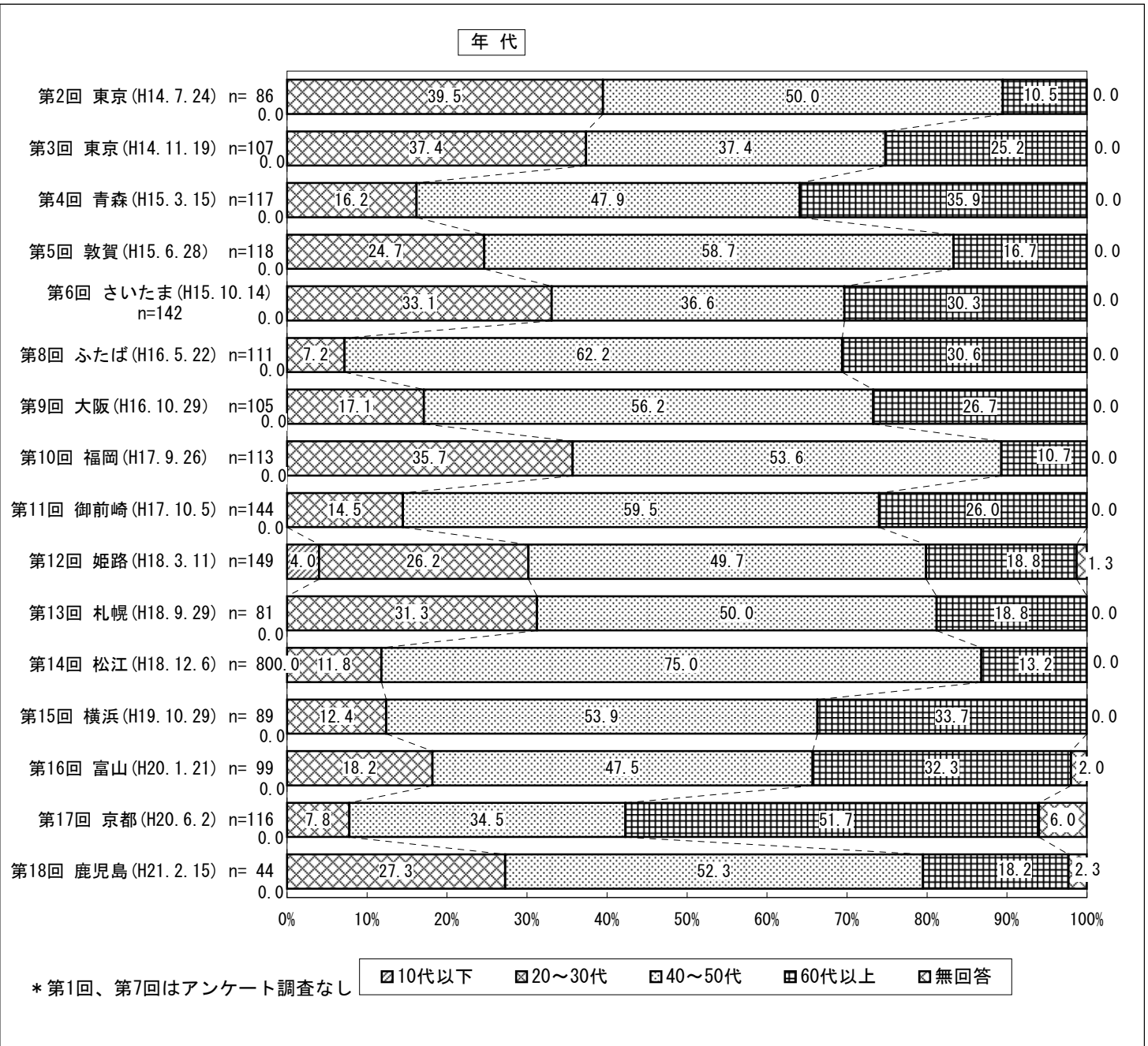
■期待している ■意見なし ■期待できない ■無回答

Q 4 : 開催を何で知ったか

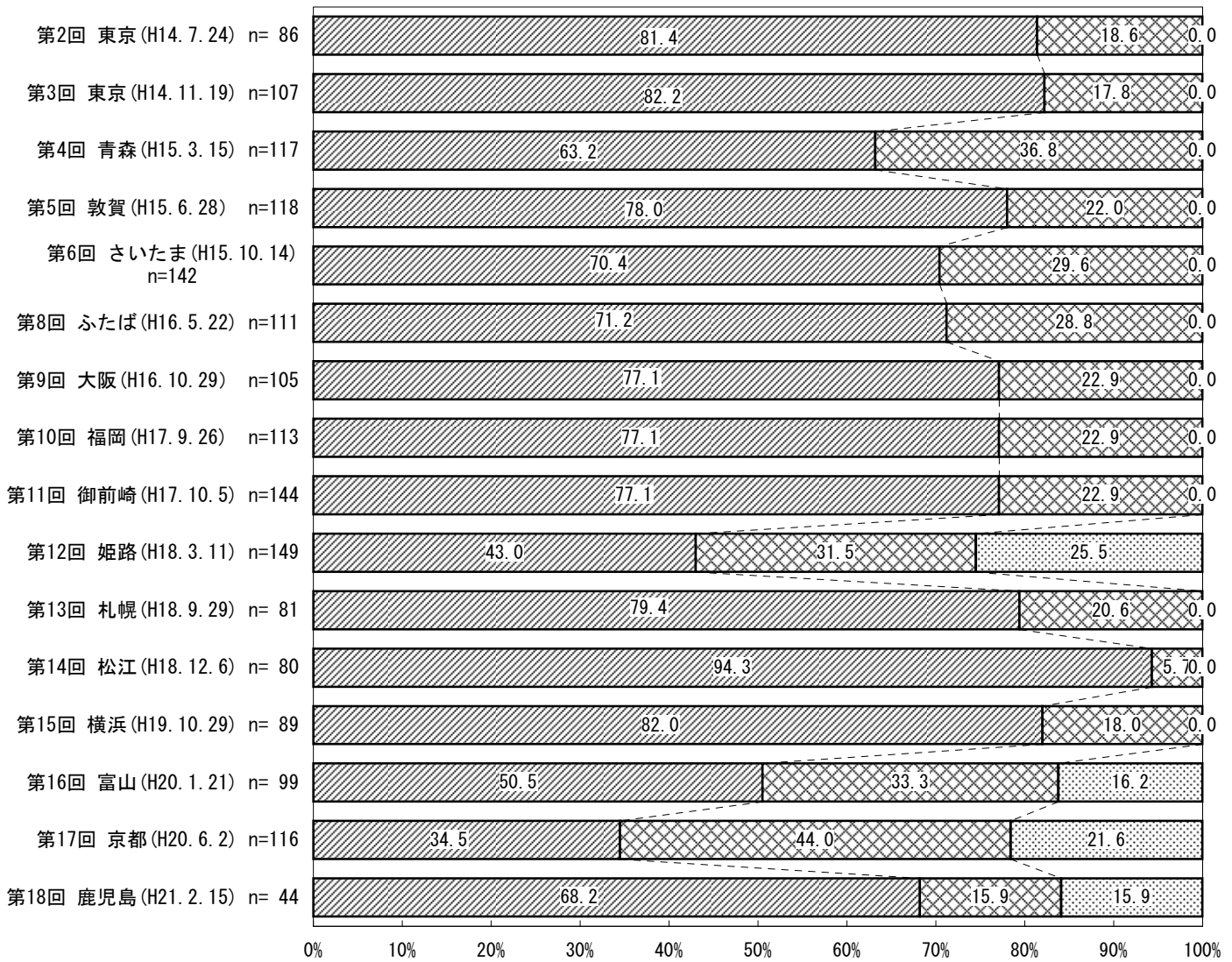


■原子力委員会HP ■新聞報道 □友人・知人から ■その他 ■無回答

* 第1回、第7回はアンケート調査なし



性 別



* 第1回、第7回はアンケート調査なし

■ 男性 ■ 女性 ■ 無回答

市民参加懇談会 アンケートにおけるご意見の整理

本資料は、地域での懇談会のアンケート結果のうち、満足／不満足に関わる自由記述を整理したものである。

□満足

- ・原子力を含むエネルギーの利用に対する考えを深めた。いずれにしても情報公開・双方向の対話が必要。【第2回東京開催】
- ・東電問題に関する本音の話が聴け、質問と回答も当を得たものが多く非常によかった。同じような懇談会を、次は新潟県・福島県あるいは福井県で開催したらよいのではないか。（県庁所在地がよい）【第3回東京開催】
- ・2部構成はよかった。特に第2部の時間が十分とれたのは画期的。【第3回東京開催】
- ・前回の市民懇よりとても良かった。本音トークを聞く事ができた。答える立場のコアメンバー・東電・保安院の対応がしっかりしていた。今後も期待している。【第3回東京開催】
- ・前回（7/24）に参加した時には、こんな関係者ばかり集まっている懇談会では仕方ないと思ったが、今回は問題も絞られており面白かった。ただし、やはり一般の人（例えば学生）に来てもらう工夫が必要と思う。【第3回東京開催】
- ・普通の主婦としての女性の方の発展的意見が多かったし、参加できて楽しかった。今回の質問内容は県民としてはレベルが低いかな。【第4回青森開催】
- ・技術論よりも一般人にわかるように開催数を重ねるしかないと思う。出席者に反対論者もかなりいたように思われ大変よかった。国も今回のように前面に出ることが必要である。プルトニウム利用政策をきちんと進めて欲しい。【第4回青森開催】
- ・幅広い意見が聞けて勉強になった。【第5回敦賀開催】
- ・今回参加できて大変良かったです。原子力の良い所、悪い所を詳しく発表して聞かせていただきとてもよかった。これからも何の会でも参加したい。ただ、もう少し質問している事に答えて欲しい。今日のテーマに関わりなく。【第5回敦賀開催】
- ・今日は色々な立派な先生方の意見をお聞きできて良かったと思います。一般市民の質問も反対の方が少々多いと思いましたが、市民の方でとても良い質問をされた方もあり良かったと思います。これから若い人達の時代に必ず原子力が必要になります。【第5回敦賀開催】
- ・市民はマスコミを通してまったくその企業側の報告に対してのものであっても何の力もないといつも感じていました。この様な形の懇談会によって電力の供給の安定より人間の住む場所の安全の次に豊かな生活があると改めて思いました。【第6回さいたま開催】
- ・原子力賛否・中立様々なお話を聞いた。【第6回さいたま開催】
- ・各分野の先生方のお話を詳細に伺いました。大変勉強になりました。又地域にもこの会のような場をもって話合う事もいいのではと思います。【第6回さいたま開催】
- ・聞いている側にとってわかりにくい所について随時フォローの発言があった。【第6回さいたま開催】
- ・パネラー・発言者の構成がまあまあ。このメンバーで内容の良し悪しが決まると思う。【第6回さいたま開催】
- ・市民の意見を聞く姿勢が感じられた。賛成・反対にかたよらず、意見の違いに真摯に聞く姿勢が感じられた。【第6回さいたま開催】
- ・市民参加懇談会になってからの意見、発言から非常に納得できる会になった。【第6回さいたま開催】

開催】

- ・ いろいろな意見となぜそう考えるかを垣間見ることができた。ただ意見を伺うということで若干のものの足りないところは残る。【第8回ふたば開催】
- ・ それぞれの立場の人たちが発表の機会を与えられ、またアドバイザーの声もその都度聞くことが出来てとてもよかったと思う。これからこのような場を設けてほしい。【第8回ふたば開催】
- ・ 対話型である。多くの人が意見を述べた。主催者が誠実である。【第8回ふたば開催】
- ・ 賛成、反対、不安等さまざまな意見が聞かれた。【第8回ふたば開催】
- ・ 参加する年齢域を作って欲しいと思った。200名の中にこれから住む若い人達の意見も大切だと思う。地元の若い人達の意見が「これまでとこれから」の原子力の考え方が違ってくるのでは？【第8回ふたば開催】
- ・ 色々な視点からの意見を聞いた。【第9回大阪開催】
- ・ 全体的にフェア、比較的冷静な意見が多く良い。【第9回大阪開催】
- ・ 政策として決定したことを議論しているのではなく、真に意見を求めている事が分かった。【第9回大阪開催】
- ・ 自分の意見を自由に発言できる雰囲気であった。【第9回大阪開催】
- ・ 賛成・反対の双方の意見が率直に出ていたと感じた。【第9回大阪開催】
- ・ 生【なま】の声がよい。ペーパーでなく【第9回大阪開催】
- ・ 発言者が思ったより多かったから、第一部では推進派と反対派の数を等しくして欲しい。【第9回大阪開催】
- ・ 今回は原発反対の意見も聞く事ができ、現場からの声を聞く事が出来たことは有意義であった。【第9回大阪開催】
- ・ 進行がスムーズで沢山の方の意見が出された。【第9回大阪開催】
- ・ 市民参加の名のごとく幅広い層の意見が聞いた。【第9回大阪開催】
- ・ 原子力の推進、反対の立場からの意見を述べあう場としていいし、原子力委員からも直接生の声を聞けるのもいいと思う。【第9回大阪開催】
- ・ 両方の意見と中立の意見も聞いた。【第9回大阪開催】
- ・ 批判的な意見でなく、前向きな積極的な意見も公平に取り上げてもらい議論できた。【第9回大阪開催】
- ・ 市民参加懇談会に初めて参加した。生の声を耳にする貴重な機会だと思う。【第9回大阪開催】
- ・ このような会のあることを知っただけでも良かった。色々な発言者、色々な考え、対する原子力委員会のあいまいな姿勢、これが日本か！【第9回大阪開催】
- ・ 双方向の意見を出し合うとの発言は重要なポイントでしょう！情報開示のあり方と今一度考えてみる機会にしましょう！【第10回福岡開催】
- ・ コアメンバーが適時適切なコメントをはさんで非常にわかりやすかった。【第10回福岡開催】
- ・ 多種多様な方々の意見が聞けて勉強になりました。【第10回福岡開催】
- ・ それぞれの立場で求めている情報は何か少しわかった。このような機会はないため有意義であったが、届いていないのは何故か、どうすればよいか明確には出てこなかったが、必要な情報をどのように取りにいくのかが大切。【第10回福岡開催】
- ・ 一般参加【市民】者の意見を取り入れて会場と一緒に進行している点。【第10回福岡開催】

- ・情報が届いているかどうかテーマが限られていたという事には不満ではあるが、いろいろな意見が出て、とても勉強になりました。【第10回福岡開催】
- ・原発反対の人にも発言の機会が与えられ、その話が聞けたので。「情報が届いているか」という設問での懇談会は、パネリストが言われたように、知りたい情報が何かとわかっている人しか判断できないので。【第10回福岡開催】
- ・原子力への賛否両論、バランスよく聞けたことが参考になった。【第10回福岡開催】
- ・地域の人からの意見をよく聴き取ろうとしているのは良い。【第11回御前崎開催】
- ・発言者の率直な意見を聞くことができた。発言者の発言内容には知識、情報量の差があることがはっきりわかり、勉強になった。市民の思考を目覚めさせることが大事。【第11回御前崎開催】
- ・反対派の人間たちが満足したと思う。自分は反対派ではなく、賛成であるがこのような機会は良いこと。日本国のためには、プルサーマルは必要である。【第11回御前崎開催】
- ・いろいろな意見を持っている方が、同じ場で意見交換することができたから。【第11回御前崎開催】
- ・色々な立場、考え方の人の意見が聞けた。【第11回御前崎開催】
- ・市民の声を行政に届ける機会が増えること。【第11回御前崎開催】
- ・賛否両論いろいろな意見が積極的に出されて良かったのではないかな。【第11回御前崎開催】
- ・半分程度ではあるが、地元の方の意見を聞くことができた。【第11回御前崎開催】
- ・私も原発に対して不安を持っているが、代弁者がいてうれしかった。市民は不安を持っていてもそのことを口に出すとすぐ「反対派」として烙印を押され、言いようのない不愉快な思いをすることが多い。【第11回御前崎開催】
- ・パネラーの方々が専門家としてのレベルが高いだけでなく、分かりやすい説明される能力が高く、大変勉強になった。【第12回姫路開催】
- ・広い分野の専門家の話が聞けたこと。利用分野への紹介、安全基準のあり方、安全確認事項等意識を高めることが出来ました。【第12回姫路開催】
- ・短時間に各分野のパネラーが、とても分かりやすく説明してくれた。コアメンバーからの意見が、その他質問が、的を射ていて良く理解できた。【第12回姫路開催】
- ・放射線利用の事例の説明により具体的なことが良く理解でき、それに関してパネラーの質疑が自分の疑問点と重なることが多く参考になりました。【第12回姫路開催】
- ・医療、食品など今までよく知らなかった分野の専門家の意見が直接聞けた。【第12回姫路開催】
- ・官、学、産、民間の各々の立場での主張に則った有意義の議論からすり合わせが出来るよい機会だと思った。【第12回姫路開催】
- ・色々な分野からの現状・意見が聞けた。今回の懇談会に参加したことにより、あまり深く考えていなかったことに非常に関心を持った。【第12回姫路開催】
- ・パネリストの方、参加コアメンバーの方の一人一人の意見や考えをお聞きすることが出来たことは素晴らしいことでした。【第12回姫路開催】
- ・自分のほとんど知識のなかった事をその分野の研究者の説明反論を聞くことが出来、知識が広がった。【第12回姫路開催】
- ・全体的にバランスの取れた議論で理解が深まった。【第12回姫路開催】

- ・専門的・視点でのディスカッションの中で、今後におけるエネルギー問題を国の方向付と捉えて真剣なる御意見を拝聴した。【第13回札幌開催】
- ・賛成・反対・中立など、議論が活発であった。【第13回札幌開催】
- ・目の前にパネリストのメンバーがいてとけ込みやすかった。【第13回札幌開催】
- ・反対派の方も出席されていたので、議論が活発であった。私は原子力賛成。【第13回札幌開催】
- ・平面フロアでパネリスト、コアメンバーとも近く、大変臨場感があり自分も参加しているんだとの意識を持つことができた。【第13回札幌開催】
- ・原子力の反対論についての意見も聞いた。この様な会議では反対論はあまり聞けない。【第13回札幌開催】
- ・以前より、こうした対話の会に参加したいと考えており、内容もだいたい期待するようなものであったから。【第13回札幌開催】
- ・反対の立場の人、テレビを通じて中立の人など、それぞれの考えを持った人を交えた話し合いはよかった。【第13回札幌開催】
- ・構成メンバーのバランスの問題を除けば、コミュニケーションがまあまあかみ合い、それなりの成果はあがったと考える。3年前のさいたま市での懇談会は、東電不祥事もからんで対話の雰囲気が悪かった。【第13回札幌開催】
- ・国、県、市が開催するシンポジウムは、原子力賛成の立場で論議されている。一方、新聞その他ジャーナリストの文書は、反対の立場で論議されている。そのため、双方の意見が聞ける本懇談会は、非常に有意義であった。(お互い何を伝えたいのか、何が必要なのかよく分かった)。【第14回松江開催】
- ・原子力委員会が国民の意見を聞くという仕組みは、原子力に関して方向性を間違わないことについて有益と考えます。地域の人あつての原子力です。【第14回松江開催】
- ・市民の意見として色々なモチベーションがあり、人と人とのコミュニケーションを通して、広く知識として吸収していくことが必要と感じられた。【第14回松江開催】
- ・賛成・反対の立場にこだわらず、自由に意見を述べる懇談会であり、よかった。【第14回松江開催】
- ・新聞やニュースからでは得られない“市民の声”を“生”で聞くことができたから。【第14回松江開催】
- ・もう少し市民の目線での（議論）発言を期待していた。登壇者が言われる様な発言にもっと反応して欲しい。自分自身に関心をもたれる様な場面を多くしてほしい。【第14回松江開催】
- ・賛成か反対ではなく、原子力に対し思いを素直に意見が言える場が持たれた事が良かった。最終的に出された意見が反映出来るのかが大切だと思います。【第14回松江開催】
- ・用意されたシナリオがない自由な意見交換であった。【第14回松江開催】
- ・地元の方々の声を直に聞いた。色々な意見が出され、非常に健全なる討論であったと思う。【第15回横浜開催】
- ・皆さん、特に立地の方の生の声を聞いた。【第15回横浜開催】
- ・電力会社、地元自治体、一般市民、科学者等幅広い分野からそれぞれのご意見、主張を聞くことができた。ただ、懇談会の開催時間が「平日の午後1時30分から」というのは、一般の人が参加しにくい時間なので、せっかく良い内容なのに残念である。【第15回横浜開催】

- ・ 地元の人の声が聞けた。会場の人の生の声が聞けた。【第15回横浜開催】
- ・ アジェンダから離れて焦りがあるのは分かるが、せめて専門家の意見を最後受けるべきではなかったかと思う。日本の原発は地震で爆発すると誤解されたのではないかと不安だ。【第15回横浜開催】
- ・ いろんな方面、視点からのご意見を聞くことができ、大変参考になった。【第16回富山開催】
- ・ 実際に原子力施設を抱えた地区において、地震等の災害を受けた場合の生々しい実情をきくことができた。【第16回富山開催】
- ・ 原子力政策を進めたい側と、一般市民との考えの温度差が極めて大きい事が分かり、満足であった。又、原子力委員が全く当時者意識がないように感じた。【第16回富山開催】
- ・ 懇談会ということで意見を述べることは重要だと思うが、一人の人が延々と意見を言っている感じがしたので、時間を区切るなりしてもう少し短くしてほしい。【第16回富山開催】
- ・ 1. 相対する立場の方々から、生の意見が聞けた。
2. 原発の影響は、立地県だけの課題ではない。空白県ではあるが両原発には含まれた富山県で開催された意義は強い。【第16回富山開催】
- ・ 学生、一般の方々等々、本当にたくさんの意見が聞けた。【第17回京都開催】
- ・ タウンミーティングのようなやらせかと思ったが、違って良かった。【第17回京都開催】
- ・ 市民参加の懇談会を実施することに意義がある。【第17回京都開催】
- ・ 賛否だけでなく、考えさせられた会議だったので有意義だった。ありがとうございます。【第17回京都開催】
- ・ やはり原子力賛成、反対という視点から論議は不可能であると感じました。また、議論に専門性が必要とされ、難しく感じました。第1部だけよかったです。我々の専門性が無かったからかもしれませんが。【第17回京都開催】
- ・ 多方面の意見、賛否両方の意見が聞けた。【第18回鹿児島開催】
- ・ 原子力反対意見のみではなく、賛成意見もあり、良かった。【第18回鹿児島開催】
- ・ もっと市民参加の議論が必要なことが分かった。【第18回鹿児島開催】
- ・ 原子力を推進する人とならない人が、原子力委員会という公平の場で議論することは必要と考えるため。【第18回鹿児島開催】
- ・ 市民の意見を直接聞く場としてよかった。インターネット上だけでなく、直接聞ける場だった。【第18回鹿児島開催】
- ・ エネルギー講演会では専門家は1～2名のことが多いので、今日は多くの方の意見を一度で聴くことができてよかった。ただ、「原子力～知りたい情報は…」のテーマに沿っていないトークも多かったように感じた。【第18回鹿児島開催】

□不満足

- ・もっと一般の人の声を多く聞けば良いと思いました。【第2回東京開催】
- ・各界代表者の意見を聞くにとどまってしまった会に少々不満が残った。どんな小さなこと、以前に伝えたことでも一つずつハッキリとした答えなり、意見なりを示していくことが大事なのではないかと思う。今後の展開に期待します。【第2回東京開催】
- ・ご意見をおっしゃった方の個人的な考えが知りたかった(皆さん組織を背負っていらっしゃる)。 「市民」というタイトルはふさわしくないのでは。【第2回東京開催】
- ・原子力関係者も市民ととらえれば「市民」懇談会ではあったかもしれないが、会場にきているのは「市民」を代表する人たちとは思えない。特殊な関心を持つ人々ばかりであり、本気で国民を理解しようと思つての企画とは信じられない。コアメンバーとの意見交換を司会者がささげり懇談になっていない。聞くだけでは一方通行で対話ではない。【第2回東京開催】
- ・今回の進行について、テーマについて疑問、コアメンバーの方も趣旨を理解していないようだった。対話型か意見を聞くのを基本にするのか、全体として焦点がボケていた。「意見を伺う方」へのテーマが多すぎた。また会場意見の時間が少ない。テーマを絞って深くつきつめた方が良いと思う。【第2回東京開催】
- ・冒頭、司会の中村氏が市民懇は意見を聴く会であつて、議論をする会合ではないとの発言があつたが、それでは円卓会議よりも劣る懇話会ではないか。推進派と慎重派との議論(平行線となることははじめから想像されるが)が必要でないか。【第2回東京開催】
- ・もう少し具体的なテーマを出して、あらかじめ発表者・討論者には内容を伝え懇談の内容を充実するようにすべき。【第2回東京開催】
- ・「ご意見をうかがう方」「コアメンバー」「一般参加者(フロア)」の立場、位置付けが良く理解できなかった。不明解な会であつた。主催者側に意図があつたなら事前に伝えるべきであつた。意見の出し方についての時間配分も適切でなかったのではないか。【第2回東京開催】
- ・もっと一般の方の意見を述べる時間(第2部)をとった方がいいと思います。【第3回東京開催】
- ・論点を絞った方がよかった。結果は広がり過ぎて消化不良ぎみであつた。【第3回東京開催】
- ・本当に一般的な市民との対話が出来する方法を考えて欲しい。もっと問題点をフォーカス、整理する図を用意して欲しかった。【第3回東京開催】
- ・開催目的が地域の声(意見)を知りたいと言っているながら、地域の出身コアメンバーやパネリストが極めて少ないことに問題がある。さらに原子力推進派の方が圧倒的に多いため公平さが見えない。【第4回青森開催】
- ・司会者の進行、ハンドリングが悪い。発言者(会場)にはマイクを持っていく運営が必要ではないか。【第4回青森開催】
- ・参加登録せずに一般の人が気安く参加できるようにすべき。会場が狭い、出入りに余裕を持たせるべき。開催前に質問をとり時間を効率よく。【第4回青森開催】
- ・地方でやる場合には発言する人がいつも同じになり、今の方法でやる意味があるのか。無作為で選んで話を聞くなり方法(難しいが)を考えるべき。【第5回敦賀開催】
- ・第1部が少し長いなと感じた。第2部では議題である原子力のプラス面とマイナス面についてということが殆ど話題にあがらず、原子力の是非についてばかり集中しているのが疑問に残る。

もう少し質問する一般人を配慮して欲しかった。【第5回敦賀開催】

- ・第一部の時間を短くしたほうがよい。1時間以内、後半(2部)に時間をかけたほうがよい。【第5回敦賀開催】
- ・テーマに内容があっていなかった。発言者のモラルの低さにガッカリしました。ルールを守れない発言や、内容が合わない発言が多すぎる。【第5回敦賀開催】
- ・原子力発電が是か非かの話ばかりで、地元の活性化の話がなくて、これからのメリットについての話がなくて残念です。【第5回敦賀開催】
- ・本種の懇談会参加者はややもすると関係者の参加者が殆どで、一般の市民がどれほど参加しているか疑問。原子力に一般の関心を持たせることは難しい。まして会場を作って足を向かわせることはもっと難しい。市民ネットワークによる自主勉強会、時間を拘束する見学会が有効。【第5回敦賀開催】
- ・かなり違和感を感じた発言があった。かなり時間が裂かれてしまって残念でした。発言者は場の雰囲気を考えて遠慮すべきだったと思います。東電問題の迫及よりも、将来のエネルギー政策を考える為の前向きな議論がもっと欲しかった。【第6回さいたま開催】
- ・質問や意見をバラバラに聞かないで、もっとテーマを絞った議論がほしかった。【第6回さいたま開催】
- ・東電との対話集会という印象になったため。【第6回さいたま開催】
- ・不祥事がメインになってしまっていたが、エネルギーのことを考えると同時に環境の問題も考えるべき。【第6回さいたま開催】
- ・議論が全くかみ合っていない。論点が明確でない。パネラーの数が多過ぎる。【第6回さいたま開催】
- ・もっとつめて話を聞きたかった。大変よい話がでたので時間がないのが残念。【第6回さいたま開催】
- ・もう少し技術的な面からの討議を聞きたかった。【第8回ふたば開催】
- ・3分間でのまとめは短いと思った。全体時間を長くして一人あたり5分くらいの時間を取ってもよかったのでは？【第8回ふたば開催】
- ・コアメンバーの人たちの意見がつまらなすぎる。程度が低い。【第9回大阪開催】
- ・自由に発言できていることは評価出来る。市民の意見を反映するのかと思ったら、「報告」に過ぎないことに少し残念に思う。【第9回大阪開催】
- ・まだ若い人が少ないです。こんな面白い談義に参加できないなんて勿体無い。会場の規模を考えたらもっと人が多くて良いですね。【第9回大阪開催】
- ・発言者に原子力に賛成する人を選ぶのはいいが、せめてもう少しでも基本的知識のある人を選ぶべき。パンフレット通りの発言をしてもあまり意味がないと思う。【第9回大阪開催】
- ・美浜事故の意見を聞きたいのであれば、美浜町か敦賀市で行うべきだと思う。ぜひ福井でもう一度やって欲しい。【第9回大阪開催】
- ・コアメンバーを最初から含めたパネルディスカッションをするのが良いのではないですか。【第10回福岡開催】
- ・一部の人だけが熱く語っていて、不平不満ばかりが聞かれた。今回のテーマとはあまりにかけ離れた話が多かった。もっと一般的な意見をききたい。【第10回福岡開催】

- ・ 知りたい情報が届いているか、どういう情報があるのかはつきり提示されていない。【第10回福岡開催】
- ・ 原子力委員会から情報が出されていない事に対して、何の反省もおわびもないから。【第10回福岡開催】
- ・ 原発反対意見ばかりで本題に沿った内容のものが少なかったように思う。他地域の方が多く、もう少し地元の意見が欲しかった。【第11回御前崎開催】
- ・ 意見を選ばれた人、応募した人が言う事はいいが、自由な会場の人が意見を言うのは、地元以外の人達ばかり、本当に地元の人の意見を聞くのなら、御前崎市、せめて安全協定の締結範囲の市町にして欲しい。【第11回御前崎開催】
- ・ コアメンバーの構成が不公平である。もっと開かれたものであるべきだと思う。地震の問題をあえて避けている。原子力委員会こそ、地元で電力会社の安全軽視が届いているか聞きたい。【第11回御前崎開催】
- ・ 本心だろうかと思った話があった。良かったことの話が多かったように感じた。市民は本当にそう思っているのだろうか？御前崎市ばかりでなく10kmの内にいる市民にも話を聞いてもらいたかった。【第11回御前崎開催】
- ・ 「討論」ではなく「聞く」という姿勢は傲慢では？討論すべき。委員は何をしに来たのか。【第11回御前崎開催】
- ・ 推進派も反対派も自己主張的な発言に終始し、テーマである「知りたい情報は届いていますか」に答えていない。【第11回御前崎開催】
- ・ もっと大きく公開討論会にしないと！宣伝も足りない。そもそも県民や地元を全く無視し決定してしまう原子力行政はナンセンス！！【第11回御前崎開催】
- ・ 各分野について別々に議論すべき。一度に全部やろうとして無理がある。市民が意見を述べる時間がない。「講習会」という標題に変えるべき。【第12回姫路開催】
- ・ 参加者の意見分布を具体的資料で提示されなかった。事前にその地域のランダムサンプルでアンケートをして、それを当日議論に生かす方向で検討して欲しい。【第12回姫路開催】
- ・ パネリストのなかに、放射線を照射した食品を口にした場合に人体にどういう影響があり得るのかということに答えてくれる方が見当たらなかったこと。政治家などの行政関係者がいなかったこと。【第12回姫路開催】
- ・ 賛成派の広報、懇談会に写った。賛成派、反対派ともに具体的数値を示し、「何故」「どうして」を討論して欲しかった。例えば、北海道にエネルギーが「有る」との事だが、具体的にどれだけ？【第13回札幌開催】
- ・ 原子力推進が前提になった議論。自然放射線と原発の議論を同等に述べるのはおかしい。【第13回札幌開催】
- ・ パネリストの説明において専門用語などが使われ、一部理解することが難しいところがあった。コアメンバーからパネリストに対しての質問に対しての答えが適切でないような気がした。話がある場合、調整する人が少なかった。反対派の意見を発言する人が1人しかいなく、バランスが悪い。【第13回札幌開催】
- ・ 一般の方は、原子力の事を全くといっていいほど理解しておられない。次回からはせめてモデルでも展示しながら説明が必要ではないか。【第15回横浜開催】

- ・ある限られた時間があり、議論をするのだけれど、議論が収束しない。テーマを区切って実施してみても？ つまり、地震災害という点、原子力トラブルという点、風評被害という点、などなど。【第15回横浜開催】
- ・原子力安全委員会と共催でやって欲しかった。【第16回富山開催】
- ・少し難しい話が多く、市民参加懇談会だとは思うが、誰にでもわかり易い説明がもっと欲しい。【第16回富山開催】
- ・せっかく富山で開かれたのに、その意義があまり感じられなかった。【第16回富山開催】
- ・柏崎等の地元からの意見に原発に係る事項なく、無意味だった。尤も、原発事故が発生していないのでやむを得ないが。また、風評被害の問題が発言されたが、原発によるものでなく地震によるもので、あたかも原発が原因であるかの如く宣伝されたのは残念。【第16回富山開催】
- ・様々な立場（分野）での考え方は理解できる場であったが、懇談会が終わってみて感じたことは、「それで、我々がすべきこと、国がすべきことって何？」であった。私が地域でこの懇談会の話をするときは、核心がないため、感想文程度になってしまう。【第17回京都開催】
- ・第一部のパネラーが偏っている。（もっと反対や批判的な立場の人を入れるべき。）【第17回京都開催】
- ・フロアーとの質疑の時間が短い。パネリストの資料が欲しい。【第18回鹿児島開催】

市民参加懇談会 会場からのご意見の整理

本資料は、地域での懇談会の開催結果についての原子力委員会
定例会への報告資料を基に作成したものである

回数	第1回
日時場所	平成14年1月15日(火) 19:00～21:30 【刈羽村】
テーマ	○わたし達がエネルギーを大切に使うためには、どういう暮らし方がいいか。 ○エネルギー供給のあり方は、どうあったらよいか。 ○いま、原子力発電に求められるものは何か。
発言者数	10数名

	会場からの主なご意見
1	住民投票では反対が過半数を占めたが、プルサーマルをきちんと理解して投票したかは疑問だ。
2	自分としては、もっと豊かな生活をしたかったので、プルサーマル賛成の活動をした。
3	ウランに余裕のあるときに、対策をとることが大事だ。今日は、プルサーマルのことをもっと勉強したかった。
4	住民投票は刈羽村でのプルサーマル受入れを否定しただけで、我が国のプルサーマル実施を否定したわけではない。
5	今回の住民投票では、事業者の地元対策が問われたのだと思う。
6	国や電力会社は都合のいいことしか言わないので、公正な情報提供を行うべき。

回数	第2回
日時場所	平成14年7月24日(水) 13:30～16:30 【東京】
テーマ	①日本のエネルギーの需要と供給はどうあったらいいか。 ②原子力発電は必要か、あるいは不要なのか。 ③原子力政策決定過程と市民とのかかわり
発言者数	3名

会場からの主なご意見	
1	原子力に関する風評被害については何らかの手だてを考える必要があるのではないか。報道のあり方に一考を要する。
2	市民との対話の場は重要。市民参加懇談会はさまざまな形で、回数を重ねて行くよう期待する

回数	第3回
日時場所	平成14年11月19日(火) 13:00～17:00(1部:1.5時間、2部:2時間)【東京】
テーマ	知りたい情報は、届いているのか ―東京電力の不正転載を契機として―
発言者数	11名

	会場からの主なご意見
1	一連の報道は、公平な議論を行う上では偏っていると感ずるほど不十分であり、問題があったのではないか。
2	インターネット上の大量の情報は検索するだけでも大変であり、情報公開とされているといっても、必要な情報に接近できない。そのギャップを埋めるのがマスコミの役目ではないか。
3	シュラウドの検査記録の不正問題は、新たなものの作製に時間が必要だったので、安全の範囲であれば運転していこうとしたことから起きているのではないかと考える。安全と判断するのであれば、金属の脆性劣化の情報を提供するなど、技術情報の公開が必要。技術の進歩を踏まえた上で安全が支えられているのかが知りたい。
4	規制や基準をいくら厳しくしても、運用するのは人間。従って、ミスやネガティブな事柄でも情報を出すことが大切。また、そのミスを次へどう生かすのかが大切。
5	うそをつかれていたということで、電力会社や国の言うことは信用できないと感じた。どのような情報が必要かということについては、難しいことを聞かされてもわからない。結局、事故が起こることを前提に、損害賠償や防災を含めて、精一杯、ここまで考えました、という姿勢を示していただくことをお願いしたい。
6	東京電力からの説明を、生の言葉で聞くことで、一生懸命やっていることが伝わってくる。今後このような努力を続けてほしい。
7	電気が湯水のように使えることが当たり前だと思っている人が多いと感じている。小学校の教科書に農業、漁業のしくみがあるように、電気を作るしくみを小さな頃から教えていくことで電気の有難味がわかるのではないか。
8	維持基準は欧米には既にあるのだから、日本でももっと早く出来たのではないか。
9	格納容器漏えい検査に国が立ち会っているのであれば、その時に偽装をわかっていたのではないか。
10	何がわかっている、何がわからないのか、未知の分野もある。専門の方は恐れをもって扱うことを忘れないでほしいし、法律を作る方もよく考えてほしい。
11	国や東京電力が行ってきたものだからということで、立地の人は不安を押し殺してきたが、今回の件で覆された。不正記載も漏えい率検査の偽装も、それが行われる土壌があったということで同じ問題。
12	エネルギーの需給という話が出たが、電気を使うだけの人達が何を言うのか、という感じ。もっと、立地地域の人のことを考えてほしい。
13	原子力は未だ発展途上なので、現実にはそぐわない規則であれば時間をかけて考えていくことが大切。
14	今回の件があったので、この懇談会にぜひ参加したいと思った。このまま、何も考えないでエネルギーを消費していき、生活が成り立っていくのか心配になった。
15	今、原子力の電気が火力の電気に変わっている。地球環境の観点からはマイナスである。原子力は、そういう使命も負っているという観点から業務にたずさわってほしい。
16	電力会社の現場の方の気持ちとしては、なぜうそをついたのかと言われるのは心外ということだろう。維持基準作りは長い時間がかかる、1日発電所を止めると1億円の損、悪いことだとわかっていたが、積極的な意志ではなくつい行ってしまったのではないかと、決して悪意や私利私欲で行ったわけではない、と思う。

回数	第4回
日時場所	平成15年3月15日(火) 13:00～16:40(1部:1時間、2部:2時間)【青森県青森市】
テーマ	知りたい情報は、届いていますか ー核燃料サイクルを考えるー
発言者数	12名

	会場からの主なご意見
1	原子力の危ない部分、そして危ないからこういうふうな管理をしていかなければいけないということも教えてほしい。
2	もんじゅの裁判について、国会でかなり議論している。そのことをマスメディア、行政も伝えていくべきではないか。
3	使用済み燃料に対する再処理、直接処分等の選択肢に対して、それぞれのメリット、デメリットといった基本的な情報をもっと出すべきであり、再処理を前提とした情報しか出していない。情報公開がまだまだ欠けていると思う。
4	何でもかんでも原子力というのではなく、他のエネルギーも含め、幅広く検討すべきである。
5	我々も学校で原子力を深く学んだ記憶がないため、子供に伝えることもできない。義務教育の中で一般科目の扱いでエネルギーに関する授業を取り入れてほしい。青森県内の大学にエネルギーを学べる学部を作してほしい。
6	情報が入らないため、若い世代は原子力に対して関心がない。若い人に原子力問題に対して興味や関心を持ってもらうためにも学校教育で原子力を取り入れるべきである。
7	原子力関係の不祥事はそれを扱っている人の問題ではないかと思う。人あるいは組織として、危険に対する管理をどのようにすべきかという本質を考えていかなければ、同じようなことが次から次へと起きてくるのではないか。
8	海外で再処理したプルトニウムをどのように利用するかをはっきりさせた上で、六ヶ所の再処理工場を考えるべきである。
9	最終処分地、中間貯蔵地の問題について、全国の問題として考えていくべきである。

回数	第5回
日時場所	平成15年6月28日(土) 13:00～17:00(1部:1. 5時間、2部:2時間)【福井県敦賀市】
テーマ	原子力と地域社会 ―原子力が地域にもたらすプラスとマイナスを考える―
発言者数	14名

会場からの主なご意見	
1	交付金については、ハード面だけでなく、人材育成、技術育成といったソフト面に充実してもらいたい。
2	敦賀市は建設業、飲食業が多く、原子力は地場産業や観光には役立ってはいないのではないか。
3	原子力関係の資格を取得できるような学校を作してほしい。
4	福井大学で原子力を学べることは若い人にとって重要なことである。社会人が学べるように夜間に学べる施設も充実してほしい。大学と連携して、福井から発信していくことが大切だと思う。
5	明日のエネルギー開発のために、「もんじゅ」の一日も早い運転再開、改造工事着手を願っている。
6	設置許可が無効となる判決があったのに、改造工事の着手を求めるのはおかしい。もう一度、安全審査をやり直すべきである。その姿勢を改めることが国民の安心につながるのではないか。
7	原子力長期計画は軽水炉に入れた燃料を再処理するという最初の方針に固執しすぎている。世の中は変わってきており、時代に合わせて、方針を変更していくべきではないか。
8	マイナス面は廃棄物の問題であると思う。

第6回市民塾(埼玉)第2部会場意見分析

回数	第6回
日時場所	平成15年10月14日(火) 13:00~16:30(1部:1.5時間、2部:2時間)【埼玉県さいたま市】
テーマ	この夏の電力危機とは何だったのかー電力消費地から安定供給を考えるー
発言者数	9名

会場からの主なご意見	
1	保水性建材など省エネルギーの推進、波力エネルギーなどの新エネルギーの導入を積極的に進めてほしい。
2	需要と供給がどのような状態となれば停電になるのか、また、停電を起こさないための対策は何か、わかりやすく説明してほしい。
3	今回の不祥事は、現場の作業員の慣れにあると思う。また、親会社と協力会社の意思疎通が大事ではないか。
4	「でんき予報」はエネルギーに関心を持ってもらう意味で大変よかった。今後も続けるべきではないか。
5	今回の不祥事は、労働組合にとっても盲点だった。労働組合の行動憲章を作るなど独自に取り組んでいる。この夏を停電することなく乗り切るために原子力が必要だったわけだが、組合としては、原子力の安全が確認されなければ就業拒否も辞さない態度で臨んでいる。
6	システムエンジニアリングに携わっていた経験から、原子力設備の老朽化が一番心配である。
7	コジェネが普及しない原因に、余剰電力の購入価格が安すぎることで、余剰熱の使い道に困ることが挙げられる。もっと法的整備を整え、積極的に推進してほしい。
8	家庭の電気を節約してほしいというが、昼間は家に誰もいない家庭も多いのではないかと。高層ビルがどんどん建っているが、電力消費を抑制するようなくみも必要ではないか。
9	マスメディアは事件、事故が起こったときだけの報道ではなく、その後の状況もフォローアップすべきである。いつも結局のところ、事実は何だったのかよくわからない。
10	原子力は将来的に無くすべきという意見もあるが、そのためのシナリオはあるのか。

回数	第7回
日時場所	平成16年3月27日(土) 13:00～17:00(1部:2時間、2部:1.5時間)【東京】
テーマ	原子力長期計画へのご意見を述べていただく場として
発言者数	11名

	会場からの主なご意見
1	義務教育の中で地球環境、エネルギー、それから付随してくる原子力というものを、小学校、中学校の教育の中でぜひ取り入れていくような取り組みを、切にお願いしたい。今の正確なエネルギーの状況、環境の状況というものを子供達に正確に理解してもらいたい。それがよりよい国民的なエネルギーに関する合意形成につながると考えている。
2	事実を教えるというのが、私たち教師の仕事だと思う。原子力発電所が安全だという事実、納得したものが自分自身得られれば教えられるが、今のところ納得したものがない。
3	IQとEQと両方がなければ、本当の正確な知識というのは持つことができない。日本はIQばかりである。
4	長期計画というのは他の自然エネルギーが十分に得られるようになるまでの過渡的なエネルギーとして作成されるべきだと思う。
5	核融合開発は成功しないと思うので、その開発費を自然のエネルギーは当てれば、自然エネルギーの開発が進む可能性がある。
6	原子力発電に関しては、急にこれをやめるわけにはいかないの、安全施策を十分に行い、必要とあれば増やしても良いと思う。むしろ、新規建設を増やして古い危ないものを停止したほうが良いと思う。
7	核燃料サイクルは絶対にやめてワンスルーにすべきである。再処理は難しい技術だと思う。
8	高速増殖炉の開発を凍結すべきだと思う。世界中、ほとんどがやめている。
9	放射性廃棄物の対策というのは、使用済み燃料の貯蔵庫があれば確保できる。消滅処理というような話があるがそれはできないと考える。
10	長期計画というのはやはり長期でグローバルな観点で作らないといけないうし、そういう観点でこれまでもずっと作ってきたのだと思う。
11	グローバルな観点で、アジアの繁栄を考えれば、軽水炉では限界がくるので、ウラン資源を有効に使う高速炉が必要となる。
12	「もんじゅ」については、安全第一ということを考えていただければ、動いてほしいと思っている。自分もそうだし、またここに来るときにそういうことを言ってほしいという声も何人か聞いてきた。
13	特にバックエンドコストや六ヶ所の再処理工場の問題などは、ぜひ省庁を超えた議論を原子力委員会がイニシアティブをとってやってほしい。原子力長計でかなり拘束している部分があるので、自由にたくさんの議論ができるように進めていただければと思う。
14	大都市に今まで原子力を建設しなかったのは、安全じゃないから、そこに建設するとリスクがあるから地方に建設した方が良いということからではないか。もし、本当に安全なら、大都市に建設すべきである。
15	この程度の国民が、原子力長期計画について理解しているのかアンケートなどを実施してはどうか。
16	原子力の利用について皆さん興味があるようなので、「原子力の利用及び研究開発に関する長期計画」など名前の改定も含めて議論すればよいと思う。
17	推進または反対という意見ではなく、広く民意を反映させる意見というものがどうやって7ら集められるのかを考えることも必要ではないかと思う。立地点や消費地でない、いろいろな地域のところからも意見を集約できるようなことをぜひやってほしい。

回数	第8回
日時場所	平成16年5月22日(土) 13:30～16:30(1部:2時間、2部:1時間)【福島県双葉郡】
テーマ	原子力と暮らし ―これまでとこれから―
発言者数	8名

	会場からの主なご意見
1	双葉郡の企業は深刻な経済危機を迎えており、正当な理由なく原子炉を止めることは、多大な影響をもたらす。
2	原子力発電所への必要以上の不安に対して意見したい。巨大原子力プラントは人間と同様に怪我もミスもつきものである。多少のリスクも受け入れられないという今の日本の風潮は、国を衰退させるのではないかと。33年間、多大な損害を与えた事故はない。質の高い電力供給による日本の産業、経済への貢献、地元への貢献、大気汚染防止への貢献など、その評価が低すぎるのではないかと。
3	事故に直結しないあらゆるトラブルを公表することは、いたずらに国民の不安をあおるだけではないかと。
4	一昨年のトラブル隠しの問題で、国、事業者は安全性に影響なしという説明だったが、なぜ安全性に影響がないかというきちんとした説明がなかった。
5	原子力発電所が危険だという人にどこが危険かと問いただすとただなんとなくという答えが返ってくる。
6	知事もかねてから、日本の原子力政策を変える必要性、核燃料サイクルの見直しを訴えている。県民としては、知事の発言に対し、国が明確に答える必要があるのではないかと。知事との時間をかけた意見交換なども期待したい。国と福島県が良い関係になれば、原子力について自信を持ってやっていける。
7	プルサーマルは、関西、九州、四国と連続して表明しており、近く福島でもやるとなると大問題となる。これは、国が核燃料サイクルに固執しているからであり、立ち止まって考えるべきという意見に耳を傾けるべきではないかと。
8	日本のエネルギー問題の根幹であるサイクル政策を推進すべきだと考えるが、国が誠実にわかりやすく丁寧に説明するべき。判っていない人が多い。
9	プルサーマルが理解されていない。核不拡散の観点から考えるべき。
10	原子力発電所の高経年化が心配である。敦賀と同様、廃炉にして新しい技術を導入すべき。新しい技術者を育てるためにもお願いしたい。
11	規制機関を推進機関から分離独立することを原子力委員会が率先して誘導すべき。
12	原子力の健全な発展を願っている。反対するのは東京をはじめ地元以外の方ばかりである。技術開発で事故は起こるものであるが、一番心配しているのは、国のだらしなさ、対応の悪さ、無責任さである。

回数	第9回
日時場所	平成16年10月29日(金) 13:30～17:00(1部:1. 5時間、2部:1. 5時間)【大阪府大阪市】
テーマ	～核燃料サイクル政策に関してご意見を述べていただく場として～
発言者数	19名

会場からの主なご意見	
1	高レベル放射性廃棄物の処分場が決まらない状況では、最良の選択は再処理せずにこれ以上ゴミの量を増やさないと。高速増殖炉については、市民も交えてきちんとした議論がなされるべきだと考える。
2	エネルギーの将来を考えると核燃料サイクルが必要と考える。安全の言葉を現場からボトムアップであげていくと同時に、政策というものはトップダウンでしっかりとしたものでなくてはならない。
3	再処理はどういうメリットがあるのか明確にして欲しい。
4	市民参加懇談会での意見を新計画策定の審議に反映して欲しい。核燃料サイクル政策は、国民にとって非常に重要な問題であり、パブリックコメントを経ずして最終的な委員会決定とならないことを確認したい。
5	地元の人は普通に生活している。全国の国民の人たちに、もう少し原子力の状況について深く理解していただきたい。電力の生産地と消費地という格差がまだまだあると感じる。
6	貧弱な日本のエネルギー問題を解決するため高速増殖炉サイクルが必要。現行長計では高速増殖炉実用化に向けた具体的な年数がなくなったが、復活させて、もんじゅの運転再開、実用化の道をつけて欲しい。
7	美浜の事故は、二次系の破断であっても一次系に影響する。火電と同一視して考えることは間違いだと思う。また、労働者の安全という立場で考えて欲しい。世界的に高速増殖炉の時代は終わったといわれている。日本だけが固執していくのはおかしいと思う。方向転換を大胆にやるべき。
8	高速増殖炉の開発は、米国、中国等で行われている。競争である。日本が、これからエネルギーを将来まで安定的に使っていくためには、世界に先駆けて高速増殖炉の技術を手に入れることは極めて重要だと思う。
9	現時点で、今の快適な暮らしを可能にしている大きな力である原子力に、国民はもう少し多くの関心を寄せなければならない。
10	意見を集めた後に、そこから出た結論の一つ、何か市民ができることを提示して欲しい。また、核燃料サイクルは100年経たないと処理はできないと思う。100年経って処理してくれるのは次世代の子どもたちなので、子どもたちが判断できるよう原子力の教育をきちんとするべきである。
11	核廃棄物は何万年ともつものであり、子供に処分してくれと残すことはできない。燃料電池や太陽電池で日本は世界でトップを走っており、これが世界のエネルギー危機を解決する一番の近道だと思う。
12	原子力発電が始まってもう30年以上たっているが、いまだに使用済燃料の処分の仕方が解決されていない。国民の合意が得られていない。
13	廃炉は大きな問題であり、それを差し置いてプルサーマルや再処理を議論するのは順序が違うのではないかという気がする。また、回収ウランは使うのか、その取り扱いはどうなるのか。
14	規制を強化したり、検査を強化したりすることではなく、むしろ大幅に緩和して、現場の技術者や設計者が本来必要な感性を高めて仕事ができるような環境づくりをお願いしたいと思う。

回数	第10回
日時場所	平成17年9月26日(月) 13:30～17:00(1部:1.5時間、2部:1.5時間)【福岡県福岡市】
テーマ	原子力と暮らし ―知りたい情報は届いていますか―
発言者数	12名

	会場からの主なご意見
1	原子力のことについて知る機会がなかったため、原子力のメリットを知らなかった。事業者は情報を出しているけど、伝わってこない。
2	世の中の半分以上の人が原子力をよく理解していない。危険であるという情報で、不安になるとい人に関心を持ってもらうことが必要。興味のない人たちに興味を持たせる最初の第一段階の機会のきっかけ作りが必要。
3	昔は原子力のことを知らなかったが、チェルノブイリの事故から勉強するようになった。電気は原子力発電所からではなく、ウラン鉱山からの取り出しから廃棄物になるまでの一連についてクリアにして欲しい。
4	原子力委員会に核燃料サイクルに関する意見書を出したが、質問に答えて頂けなかった。
5	原子力のことを子供に教えるためにインターネットで検索するが、ヒットする数が多すぎて目的にたどり着かない。個々のトピックスは詳しく記載してあるが、原子力全体に書いてある情報は少ない。原子力に手の届く情報が欲しい。
6	勉強するために、ネットでは情報が多すぎるので、直接電力会社の広報に聴いている。電力会社も教え方に悩んでおり、自分からこのような事を知りたいというと、スムーズに教えてくれる。
7	エネルギー問題は長いスパンで考えるべき。
8	エネルギー問題は子供のうちから正しい知識を備えて、理解を深め、大人になったときに正しい判断が出来るようになって欲しい。
9	原子力の事が全く知らない人たちに、このような活動をやっていることを、広く伝えられればよい。
10	学校に役立つ情報を提供しているが、教職員が父母の顔色を伺っており、議論になるのを避けている。文科省にガイドラインを作してほしい。
11	原子力発電の必要性や有効性、国の政策がどのくらいの人に伝わっているのかを考えると、残念ながら伝わってきていないところもあると思う。マスメディアの方にしっかりと伝えて欲しい。
12	オフサイトセンターでの災害シミュレーションの広域情報が知りたかったが、そこにいる職員が操作出来なかった。
13	使用済みMOXを国はどうしたいか明らかにすべき。バックエンド試算19兆円、それを全部再処理すると何十兆円になる。使用済みMOXについても、情報をオープンにして議論すべき。
14	物事には必ず裏と表があるので、正しく情報を知りたいければ、双方向コミュニケーションをする努力が必要。
15	プルトニウム利用計画及び安全性の情報が届かない。

回数	第11回
日時場所	平成17年10月5日(水) 13:30～17:00(1部:2時間、2部:1時間)【静岡県御前崎市】
テーマ	知りたい情報は届いていますかーこれまでと、これからー
発言者数	15名

会場からの主なご意見	
1	地震の専門家から浜岡原子力発電所は危ないとの発言があることを知ってほしい。静岡県民は、東海地震とそれに対する浜岡発電所の安全性に注目しており、専門家を交えた討論の場を作って欲しい。
2	国の原子力政策であるとか、企業利益であるとかの問題の前に、住民の安全や安心を第一に考えた政策を検討して欲しい。
3	核燃料サイクル、バックエンドに関して、新計画策定会議での吉岡委員の提案のいきさつについて知りたい。また、核燃料サイクル政策のメリット・デメリットについて知りたい。
4	いざ非常に大変な事態が発生した場合に住民がどうしたらいいかという情報が不足している。原子力防災に関して、もう少し住民にアピールする必要がある。
5	ヨーロッパでは35基、プルサーマルの使用実績がある。先行のヨーロッパに行き、いろいろな話を聞き、安全性を確認した上で推進してもらいたい。他の地域から反対派が来るが、住民自身で納得したうえで、受入体制を作りたい。
6	原子力発電所の至近に民家があるという情報は伝わっているか。
7	目に見える安全対策を望む。事後対策ではなく、1959年に科学技術庁によって検討した原子力都市計画法のような事前対策の法律を制定して欲しい。
8	静岡県のテレビや新聞では今週の地震のコーナーがあるほど地震についての関心が深い。
9	中部電力は10月1日より1リットル以下の漏洩は情報発信しないこととなったが、これまで通り公表してほしい。
10	中部電力からはプルサーマルに関してマイナスな意見が出てこない。その情報公開が大事なことである。
11	防災について調べたが、地震の時は家から出られるよう戸や窓を開け、放射能漏れの時は窓を閉め、外に出ないという対応をとるが、地震が発生し放射能漏れの場合の対応方法がわからない。また、静岡県では地震防災の訓練はするが、放射能防災の訓練はやったことがない。このような時の対応についての情報が知らされていない。
12	浜岡原子力発電所は29年、事故もなく過ぎた。レベル1に満たない問題を取りただして反対しては日本のエネルギー問題を解決できないのではないか。
13	一番知りたい情報は安全や安心であり、仮に事故が起こったとしても、過去の類似事例につき、その後の対策・点検について情報が得られれば安心感を持てる。
14	放射線について、国の基準と比較した数値だけでは安全・安心がよくわからない。似た地域(例えば三重県)との比較を示した方がわかりやすいのではないか。
15	地震は地震、原発は原発、と情報が別々に流れており、これを一つにした情報が届いていない。市民自身がその内容を判断することによって安心感が持てる。
16	新しい情報が出たら、それに対してきちっと答えていくようなシステムが必要である。
17	原子力Q&A集での放射線に関する記述やプルサーマル計画のパンフレットで原子燃料とペットボトルを同列にあつかった記述には不満がある。情報操作があるように思える。
18	中部電力で耐震性向上のための補強工事を行っているが、具体的に知りたいし、自らで検証したい。
19	電源三法交付金の他に電力会社いろんなお金が流れていると聞いているが、そういうものを公開してもらえないのかと思う。
20	推進でも反対でも一堂に会し両方の意見を聞き、話し合いをすることが大事である。

回数	第12回
日時場所	平成18年3月11日(土)13:30～17:00 【兵庫県姫路市】
テーマ	21世紀の放射線利用について－知りたい情報は届いていますか－
発言者数	事前意見にて議論したため、当日の会場発言者なし

	会場からの主なご意見
	—

回数	第13回
日時場所	平成18年9月29日(金) 13:30～17:00 【北海道札幌市】
テーマ	原子力 ―知りたい情報は届いていますか―
発言者数	2名

	会場からの主なご意見
1	プルサーマルの安全性について賛否があるが、それについて知りたい。
2	ウラン―プルトニウムサイクルでなくて、トリウム―ウランサイクルというものがあり、有用なのではないか。
3	30年、50年ぐらいのスパンで考えると、自然エネルギーが伸びてこない限り、原子力の重要性は非常に大きい。

回数	第14回
日時場所	平成18年12月16日(水) 17:30～20:45(1部:2時間、2部:1時間)【鳥取県松江市】
テーマ	原子力 ―知りたい情報は届いていますか―
発言者数	5名

	会場からの主なご意見
1	島根原子力発電所の危険範囲について、なぜ10キロで地域制限をしたのか理解できない。
2	市民参加懇談会は、定期的で開催してほしい。
3	原子力安全委員会等の専門家は、耐震の審査の関係文献に誤りがあることを知った上で、異なる評価をしたのではないか。情報公開を徹底すべき。
4	事業者は出したくない情報、都合の悪い情報を出さないため、内部告発に頼らなければ事業者にも都合の悪い情報を入手できない。国は事業者に対し包み隠さず全てを地域住民に開示するように徹底してほしい。
5	WHO(世界保健機構)の報告では、チェルノブイリ事故で子供4,000人が甲状腺がんになり、将来5,000人ががんで死ぬと推定したが、4,000人のうちがんで亡くなったのは15人という事実。推定は事実ではない。
6	甲状腺の被曝の80%は汚染された牛乳が原因。汚染牛乳の出荷、流通を停止すれば、4,000人の甲状腺がんの発生はなかった。
7	発電所が爆発したとしても、ヨウ素は8日で放射能が半減するので、一月ぐらい汚染したものを出荷しないだけでも、甲状腺がんを防止できる。
8	災害時は屋内退避が基本。屋内退避をして窓等を閉め、マスクをし、汚染した食品を一か月程度出荷せず、食べなければ防護できる。
9	ヨウ素剤の問題は、地元の医師の協力を得て、今後検討すればよい。
10	核災害は、回復し、なくなっていく。これが、ダイオキシン汚染等化学汚染との大きな違いで、ある程度汚染しても農業は再開可能。
11	原子力については怖いと言われ、話を表立ってできない。松江市に32年間住んでいるが、事業者から安全を含め正確な知識が得られていない。正確な情報を共有するための機会を持つことが難しい。
12	原子力をどうやって伝えてよいか分からない。特に原子力基本法について、自分では伝えられない。国を挙げて関与してほしい。
13	実際に、放射能汚染された食糧が流通からカットされ得るのか疑問。
14	情報公開が不十分で、事業者を信じるに足る資料を提示されていない状態であり、無条件で承認するようなことはできない。
15	昔の高校の社会の教科書の中に、日本の発電量は原発をすべて止めても十分賄えると出ていた。原子力発電所自体存続の意味はないのではないか。
16	将来、総発電電力量の30%を原子力で維持しようとするのであれば、大学に原子力という看板をかけさせるべき。電源開発で地元にと資金の一部でも大学に回すなど、努力すべき。

回数	第15回
日時場所	平成19年10月29日(月) 13:30～16:40(1部:2時間、2部:1時間)【神奈川県横浜市】
テーマ	原子力 ―知りたい情報は届いていますか―「新潟県中越沖地震に学ぶ」
発言者数	5名

	会場からの主なご意見
1	原子力に関する知識がないので、今回の漏れた放射性物質の影響程度を、分かり易く教えてほしい。また、私は視覚障害なので耳からでないと情報というのは得られないということもあり、メディア、マスコミメディアというのはそのあたりもよく考えて、国民のみんなにわかるような報道をいち早くやってほしい。
2	原子力発電所で漏れた水の量など一般の人に大きさがイメージできるような展示や説明方法を工夫すべき。
3	技術家が考える安全と一般の人が感じる安全には違いがある。人間工学的な部分までを加えて、技術的な安全以上の部分までをカバーするような、層の厚い対策をとることが必要。
4	柏崎の魚は安く買ったたかれるといったことは、今後も長く続くのか、時間とともに自然に消えていくものか。また、教育で何とかしていくのか。
5	日本で初めて原子力発電所での震度5以上の地震が起きた。柏崎は活断層があるということはまた起こりうる非常に危険なところ。それから、もう一つ怖いのは爆弾で、テポドンに一番近いのは柏崎である。だから撤退も含めて、根本的に考えなければいけない問題が横たわっていると思う。

回数	第16回
日時場所	平成20年1月21日(月) 13:00～16:10(1部:2時間、2部:1時間)【富山県富山市】
テーマ	原子力 ―知りたい情報は届いていますか―「新潟県中越沖地震に学ぶ」
発言者数	4名

	会場からの主なご意見
1	今回の地震において柏崎刈羽原子力発電所が受けた地震動が、設計時の想定を超えたにもかかわらず、設置許可を取り消す、もしくは一時保留として発電所を停止し、調査するといった対応の検討がなされていないのは問題である。
2	建設当初活断層と評価していなかったものを平成15年に活断層と評価したにもかかわらず、その時点で公表せず、平成19年12月5日に公表した経緯を説明してほしい。
3	活断層がないと言われている場所で、なぜ地震が起きて莫大な被害が生じているのか地震学専門家の意見を聞きたい。
4	日本や海外の原子力発電所や今後の建設予定などの情報が広く公表され、教育の中での題材とすることが大事ではないか。
5	原子力災害発生の際に、住民が避難をする際の流れを教えてください。
6	複合災害を想定した場合、住民が安全に避難できない等の問題があるのであれば、原子力発電所は止めるべきである。
7	民主・公開の点がおろそかになっているところが原子力に対する国民の不信が高まっている原因と考える。国民が自分なりに判断する情報を適時・的確に提供すべき。
8	JCO事故の後に原子力防災についての法体制が変わり、国が主導する形になった。災害時の対策は時間との勝負であり、地元自治体が十分に動ける体制になっているかどうか疑問。情報の流れの観点でも、まず国に情報が入り、地元自治体への連絡が遅れるのではないか。

回数	第17回
日時場所	平成20年6月2日(月) 13:30～16:30(1部:2時間、2部:1時間)【京都府京都市】
テーマ	原子力 ―知りたい情報は届いていますか―「地球温暖化と原子力」
発言者数	4名

	会場からの主なご意見
1	ウランに変わり、トリウムを原子力の次の燃料として利用することによって、核拡散や放射性廃棄物などの問題を解決できるのではないかと考える。サミットの間などを借りてトリウムを利用する原子力を日本から発信していただければ良いと思う。
2	鮮魚の仲卸の会社で働いているが、六ヶ所村の再処理工場の稼働などの動きで、食への放射性物質の影響など、周りで関心が高まっている。原子力については、CO2を出さないなどの良い話はなされるが、マイナス面が語られていない。マスコミや電力会社などに説明責任があると思う。
3	エネルギーについては、地産地消とすべきで、原子力ではなく自然エネルギーの方がよいと思う。
4	原子力エネルギーにおいては、安全を維持する必要があるが、安全もエネルギーと同様に横断的な技術であるが、学問上どのように体系づけて説明できるか。
5	原子力委員会の資料で、主としてCO2の排出を増やしているのが発電分野だから、その対策として原子力の拡大が不可欠というのは説得力がない。そこで増えている主な要因は石炭火力発電所の規模が拡大したことであるので、石炭火力発電所を制限していくという政策をあわせて出すべきである。
6	今日はいろいろと専門的なことを聞かせてもらった。京都市地域女性連合会は学習団体であるので、学習しながら、どこが本当かを見極めて活動していきたい。また、どのような偉い方も、本日参加の先生方も、一人の生活者として環境問題に接し、一人一人が身の回りのことで実践することがCO2の削減につながると思う。さらに、今日の2人の学生から話していただいたことには心強く思っており、皆が与えられた場ではっきりとしたことを発言していくことがよい方向につながると考える。

回数	第18回
日時場所	平成21年2月15日(日) 13:00～16:00(1部:2時間、2部:1時間)【鹿児島県鹿児島市】
テーマ	原子力 ―知りたい情報は届いていますか―「地球温暖化と原子力」
発言者数	6名

	会場からの主なご意見
1	危険な原子力発電に頼るのでなく、再生可能エネルギーを促進するべき。原子力委員会としてもっとグローバルな目で考えていただきたい。
2	今日のテーマが「知りたい情報は届いていますか」ということであるが、九州電力からはストレートに言って知りたい情報が届いていないと言いたい。原子力委員会は電力会社に対して指導する権限はないのか。
3	立地審査指針の中では原発については低人口地帯につくる、あるいは、人口密集地帯からどれだけ離れていることという規定があり、それに基づいて原発の立地審査がなされているとあるが、これは今も変わっていないのか。変えてないとすれば、原発の安全性、不安があるがゆえに、万一のことを考えたら、低人口地帯につくりなさい、密集地帯にはつくってはだめということになっているのではないか。
4	日本はドイツのように自然エネルギーを使う姿勢をなぜ強めることができないのか。
5	九州電力の資料の中で、原子力発電の電力供給45～50%がベストミックスとあるが、その理由がよく分からない。なぜ原発が50%でないといけいないのか理解できない。
6	日本の場合はベースが原子力で、現在は1日の変動が倍ぐらいある。その変動分を火力で賄っているの、CO2は減らない。1日の出力の増加をいかに抑えるかがCO2削減に寄与する。そこ議論がないので誤解を生んでいると思うので、その辺のことはきちっと公表して、理解してもらわないといけいない。また、昼間のピークを抑えられる可能性としては太陽光がすごく有効。太陽光は昼間有効だが、夜は使えないので、太陽光で全部という議論はあり得ないということを理解していただきたい。
7	原子力業界として、安全がパーフェクトであると言ってきたことが不信感につながっている。技術というのは積み上げていくものであり、小さな事故を克服していつ、完全なものに仕上げるということをきちっと周知していただきたい。
8	西側の原子力発電所では、今まで放射線により人が死ぬような事故はなかったと思う。最悪の事故の状態でも防げたと思う。そういうことを踏まえると、事故がないように細心の注意を払っていけば、原子力発電は私個人としてはリスクが非常に少ない電力源と思っています。
9	最大電力量を減らすことを考えるべきではないか。そのためには、今のライフスタイルを改めたり、停電させるというのは一つの発想で、いつも電力が必ず使用できるという考え方そのものも改めてもいいのではないのか。たくさん使いすぎれば電力はなくなるというのは普通にあり得ることではないのか。